

マークをクリックするとそのページを見ることができます



発生動向総覧
P.2-6

<42週> 感染性胃腸炎 - 過去5年間の同時期に比べるとかなり多い / その他最新動向

<9月> 性感染症・薬剤耐性菌・結核について



注目すべき感染症
P.7

<腸チフス(その1)> 衛生水準の向上などにより罹患者数は減少を続け、1990年代に入ってから年間60～80例で推移している



病原体情報
P.8

患者から分離・検出された病原体報告 - 冬季の感染性胃腸炎関連ウイルス / 無菌性髄膜炎 / Vero毒素産生性大腸菌



速報
P.9-12

ウエストナイル熱に関する厚生労働省健康局長通知および届出のための基準など / 2002年、米国ペンシルバニア州で発見された第2例目のバンコマイシン耐性黄色ブドウ球菌



海外感染症情報
P.13-15

セネガルでの黄熱 - 更新3 / カナダでのウエストナイルウイルス - 更新6 / デング熱/デング出血熱 - 台湾 / フランス南西部でのC群髄膜炎菌ワクチン接種 / 他



感染症の話
P.16-18

アライグマ回虫による幼虫移行症
わが国にも北米から移入されたアライグマが多数生息するため、ヒトへの感染を防ぐ注意が必要となっている。



読者のコーナー
P.19



グラフ総覧(42週)
P.20-26



グラフ総覧(9月)
P.27-31



9月のデータ
P.32-35



42週のデータ
P.36-43



発生動向総覧

第42週コメント 10月24日集計分

全数報告の感染症

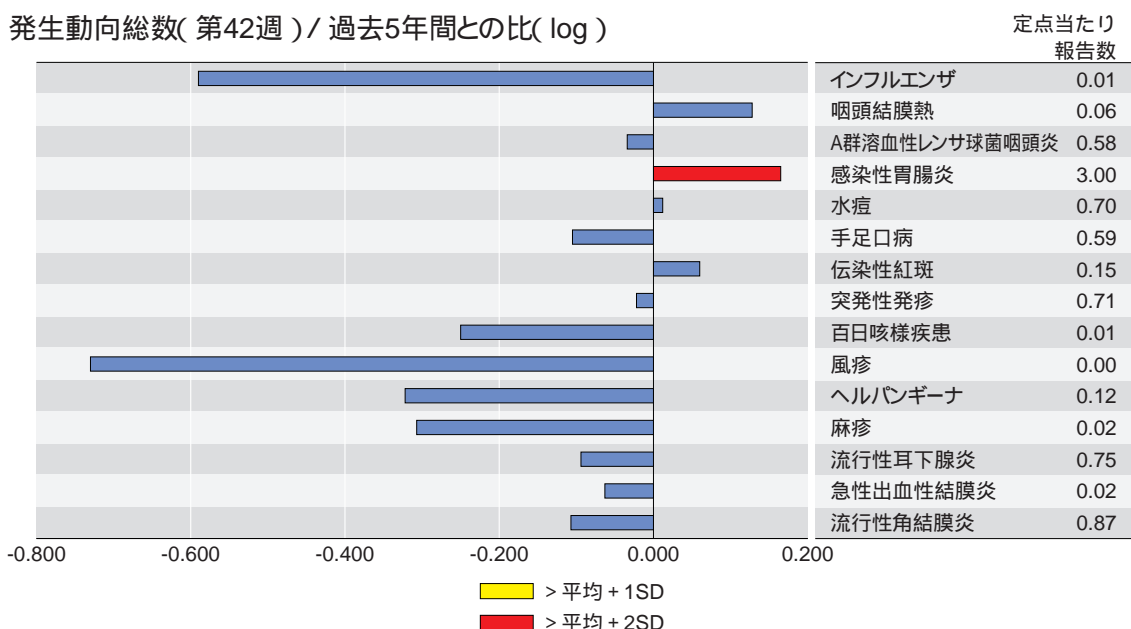
- 1類感染症: 報告なし
- 2類感染症: 細菌性赤痢12例(推定感染地: 国内2例、インド、インドネシア、中国各2例、アメリカ合衆国、タイ、トルコ、ネパール各1例) 腸チフス2例(推定感染地: インドネシア、フィリピン各1例) パラチフス1例(推定感染地: インドネシア)
- 3類感染症: 腸管出血性大腸菌感染症42例(うち有症者25例)
- 4類感染症: アメーバ赤痢2例、エキノコックス症1例(多包条虫、85歳) 劇症型溶血性レンサ球菌感染症1例、ジアルジア症1例、日本紅斑熱2例(ともに島根県) 日本脳炎1例(島根県、42歳) パンコマイシン耐性腸球菌感染症1例(血液培養にて vanC型) レジオネラ症2例
 - 急性ウイルス性肝炎5例
 - A型1例
 - B型2例(感染経路: 性的接触1例、不明1例)
 - C型2例
 - クロイツフェルト・ヤコブ病1例(孤発性)
 - 後天性免疫不全症候群3例(無症候3例)
 - 感染経路: 性的接触2例(同性間1例、異性/同性間1例)
 - 不明1例
 - 梅毒7例(早期顕症3例、晩期顕症2例、無症候性2例)

定点把握の対象となる4類感染症(週報対象のもの)

感染性胃腸炎の定点当たり報告数は、過去5年間の同時期に比べるとかなり多い。都道府県別では宮崎県(12.5) 大分県(11.8) が非常に多く、山口県(8.7) 鹿児島県(7.5) 愛媛県(6.5) 佐賀県(6.3) など多い。例年、IASRIによるとRSVの検出は45週頃より増加しており、定点当たり報告数はそれに先駆け40週頃から増加が始まっている。本年は35週頃から4週間にわたり、宮崎、大分両県を中心に周辺県も含めゆっくりとした増加が見られている。また、週を追って報告数の多い県が増え始めたことから、冬期の感染性胃腸炎の増加が始まったものと推測され、今後病原体検出の動向が注目される。

他の疾患の定点当たり報告数は、過去5年間の同時期と比べて多くなっているとはいえないが、水痘は39週以降増加傾向にある。マイコプラズマ肺炎は定点当たり報告数が0.2であり、1999~2001年の3年間の平均とほとんど変わらないが、都道府県別では秋田県(1.3) と高知県(1.0) からの報告が多い。

発生動向総数(第42週) / 過去5年間との比(log)

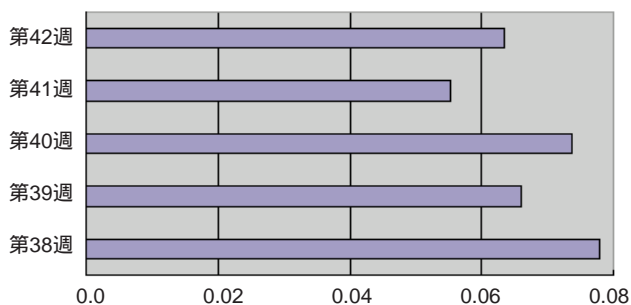


当該週と過去5年間の平均(過去5年間の前週、当該週、後週の合計15週の平均) の比を対数にてグラフ上に表現した。1標準偏差を超えた場合黄で、2標準偏差を超えた場合赤で色分けしている。

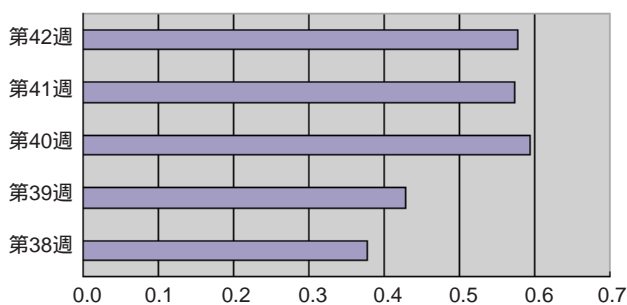
最近の注目疾患－5週間の動き

咽頭結膜熱、伝染性紅斑の報告数は前週に比べて増加している。水痘、手足口病、ヘルパンギーナの定点当たり報告数は前週に比べて減少している。A群溶血性レンサ球菌咽頭炎の定点当たり報告数は殆んど不変である。

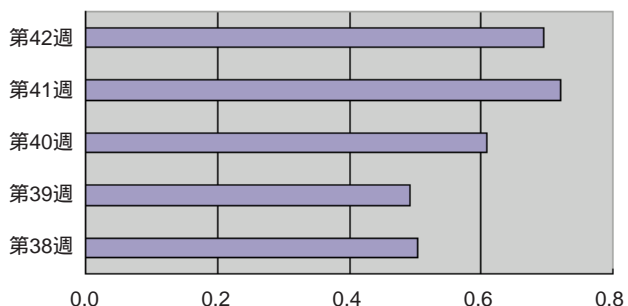
咽頭結膜熱



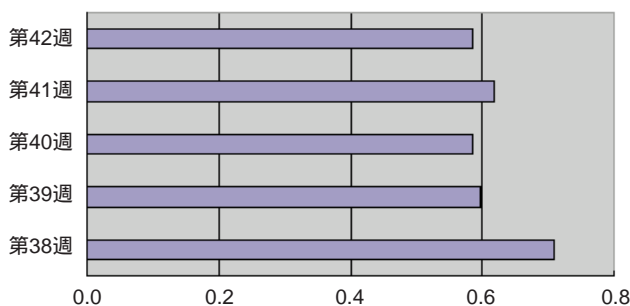
A群溶血性レンサ球菌咽頭炎



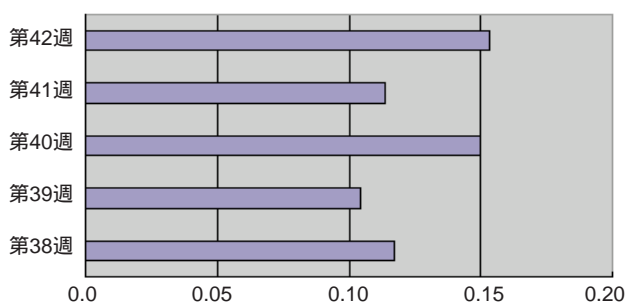
水痘



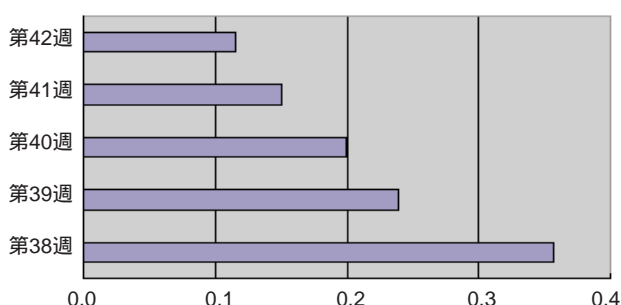
手足口病



伝染性紅斑



ヘルパンギーナ



(注) グラフの横軸は各疾患の定点当たり報告数(報告総数/定点総数)を表す。疾患によって目盛りのスケールが違うことに注意。

9月コメント

性感染症について(10月10日集計分)

2002年9月の月別定点当たり患者報告数は、性器クラミジア感染症が4.1(男1.74、女2.37)、性器ヘルペスウイルス感染症が0.93(男0.40、女0.53)、尖形コンジロームが0.53(男0.31、女0.23)、淋菌感染症が2.03(男1.62、女0.41)で、4疾病のうち、男性では性器クラミジア感染症および淋菌感染症、女性では性器クラミジア感染症が多かった(図1)。前月に比べ、男性で性器ヘルペスウイルス感染症、尖形コンジロームが増加した他は、いずれも減少した(27～30ページ「グラフ総覧」参照)。

過去3年間の同時期と比較すると、男性の尖形コンジローム、女性の性器クラミジア、性器ヘルペスウイルス感染症、淋菌感染症で平均+1標準偏差(SD)を超えている(図2)。

定点当たり報告数を年齢階級別に比較すると、いずれの疾病でもピークは20～29歳にあったが、性器ヘルペスウイルス感染症では30～34歳にも多く、他の3疾病に比べ50歳代以降の高年齢層からの報告も少なくない。

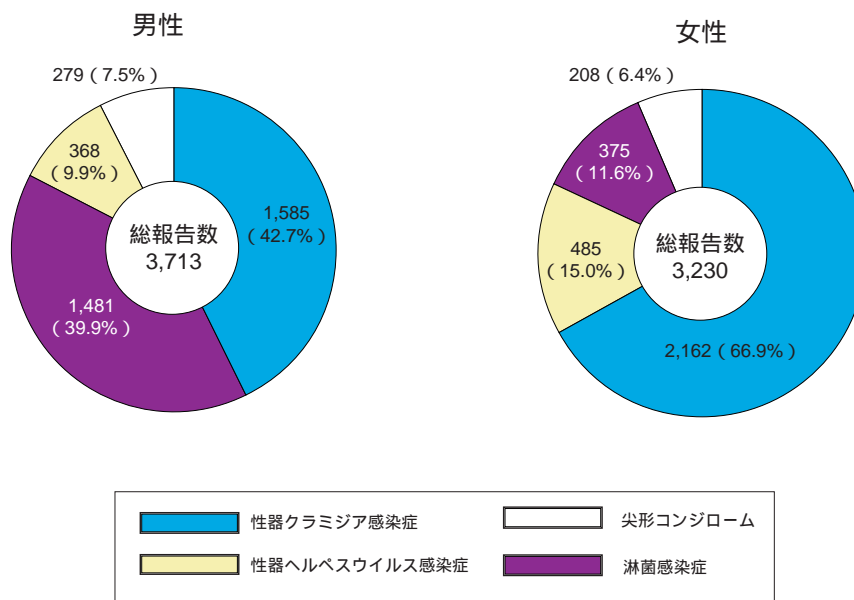
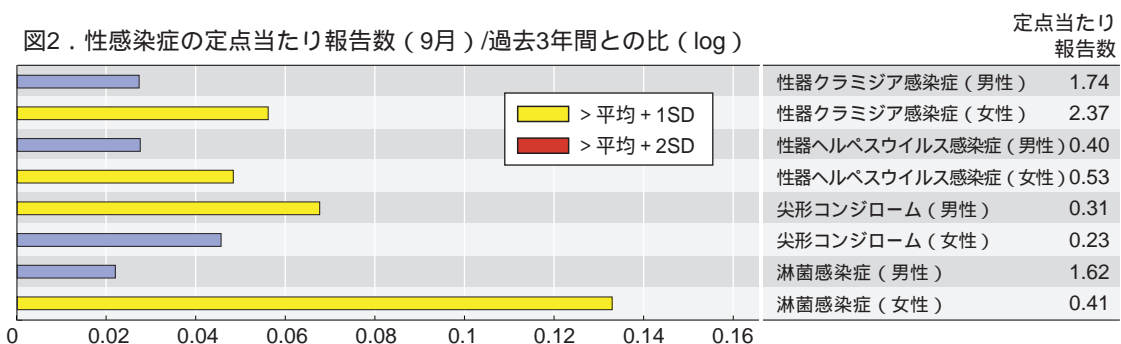


図1. 各性感染症が総報告数に占める割合(9月)

図2. 性感染症の定点当たり報告数(9月)/過去3年間との比(log)



当該月と過去3年間の平均(過去3年間の前月、当該月、後月の合計9カ月の平均)の比を対数にてグラフ上に表現した。1標準偏差を超えた場合黄で、2標準偏差を超えた場合赤で色分けしている。

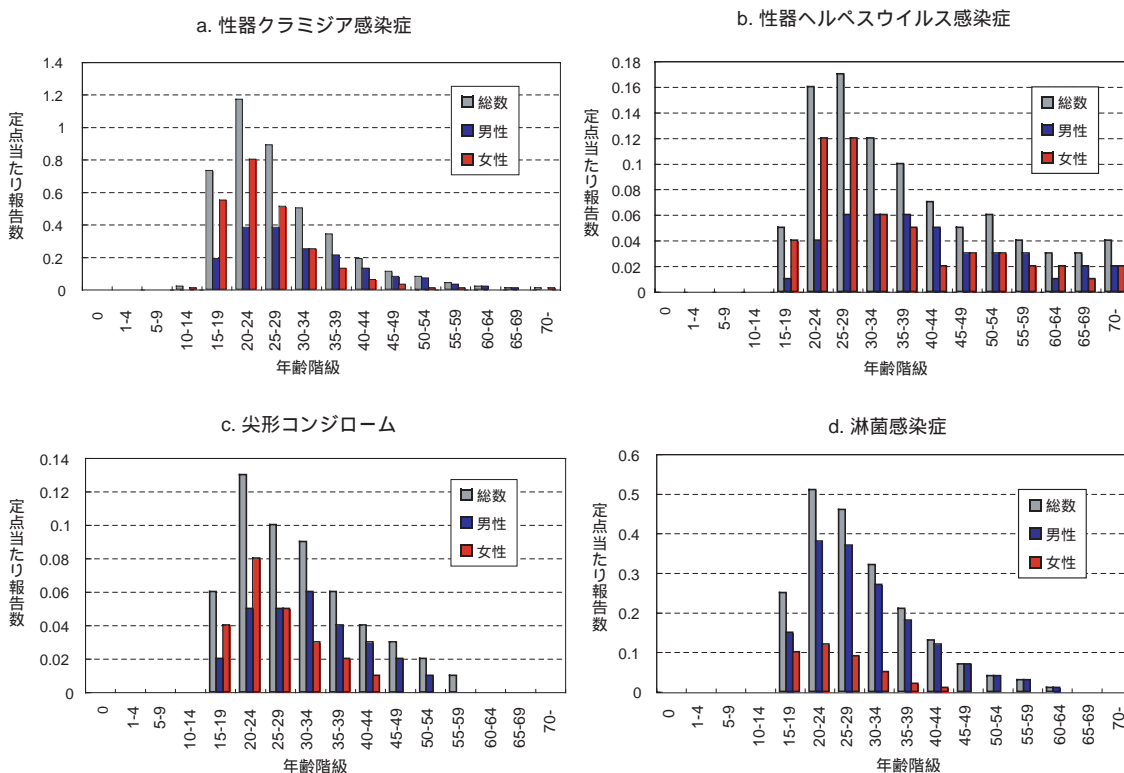
男女比は、性器クラミジア感染症(図3a)で1: 1.36、性器ヘルペスウイルス感染症(図3b)で1: 1.32、尖形コンジローム(図3c)で1: 0.75、淋菌感染症(図3d)で1: 0.25で、淋菌感染症では男性の占める割合が高い。いずれの疾病でも、若年齢層ほど女性の報告者数が多い傾向が認められた。(9月の性感染症定点総数は913)

注: 本発生动向調査で得られる性感染症患者報告数および解析結果については、以下の点に留意して解釈されたい。

性感染症においては、医療機関によって受診する患者数や男女比が大きく異なる特徴があり、性感染症を定点把握発生动向調査の対象とする場合、どの医療機関を定点として選択するか、その選択の仕方、定点の構成が調査結果に与える影響は大きい。1999年4月から新たに施行された感染症法下では、性感染症定点(900医療機関)として、産婦人科系(産婦人科又は産科若しくは婦人科)と泌尿器科・皮膚科系(性病科又は泌尿器科若しくは皮膚科若しくは皮膚泌尿器科)が概ね同数になるように設定されている。しかし、その定点の構成がどの程度我が国の性感染症の疫学的特徴を反映するものであるかについては、現在検討を進めている段階である。

従って現状では、患者報告数の男女比を含め本発生动向調査で得られる結果は、あくまでも現在の定点の構成に基づくという制限のもとに解釈される必要がある。

図3. 性感染症の年齢階級・性別グラフ



薬剤耐性菌感染症について (10月10日集計分)

【注】)内の+、-、=は、前月に比し定点当たり報告数のそれぞれ増加、減少、不変を表す。

9月の基幹定点総数 : 457 .

9月の定点当たり報告数 : メチシリン耐性黄色ブドウ球菌(MRSA)感染症 3.35(-)

ペニシリン耐性肺炎球菌(PRSP)感染症 0.61(-)

薬剤耐性緑膿菌感染症 0.14(-)

年齢階級別 : MRSA感染症 …… 今月は高齢者(65 ~ 69歳が0.33、70歳以上が1.75)に多く、5歳未満は11%、65歳以上が全体の62%を占める。
PRSP感染症 …… 1 ~ 4歳(0.27)が最も多く、5歳未満が54%を占める。
薬剤耐性緑膿菌感染症 …… 高齢者に多く見られ、65歳以上が全体の58%を占める。累積でも同様に61%を占めている。

性別 : 定点当たり報告数で男性の女性に対する比率を見た場合、MRSA感染症で1.7倍、PRSP感染症で1.4倍、薬剤耐性緑膿菌感染症で2.5倍上回っている。MRSA感染症、PRSP感染症ともに、女性の方が男性より5歳未満が占める割合が多い。薬剤耐性緑膿菌感染症は男性(54%)女性(65%)ともに65歳以上に多い。

都道府県別 : MRSA感染症 …… 山口県(12.17)と高知県(9.38)からの報告が多い。累積でも山口県(82.43)と高知県(81.25)からの報告が多く、長崎県(2.82)からの報告が非常に少ない。

PRSP感染症 …… 5月から引き続き千葉県(4.78)からの報告が非常に多く、累積でも多い(65.50)。福島県(累積で0.29)からの報告は非常に少ない。

薬剤耐性緑膿菌感染症 …… 東京都(0.84)からの報告が多い。累積では高知県(4.25)と東京都(4.16)からの報告が多い。

結核サーベイランス月報(10月23日集計分)

9月の新登録患者数は2,525人、活動性肺結核患者は2,103人(うち喀痰塗抹陽性患者は963人)であった。

また、新登録患者数に含まれない(統計的には別掲扱い)マル初*は587人、非定型抗酸菌陽性者数は276人であった。

*マル初…結核の感染が強く疑われ発病予防のための治療を受けている者であって、正確には結核発病者ではない。

コメントは結核研究所の結核発生動向調査結果報告(<http://www.jata.or.jp/tbmr/tbmr.htm>)をご覧ください。



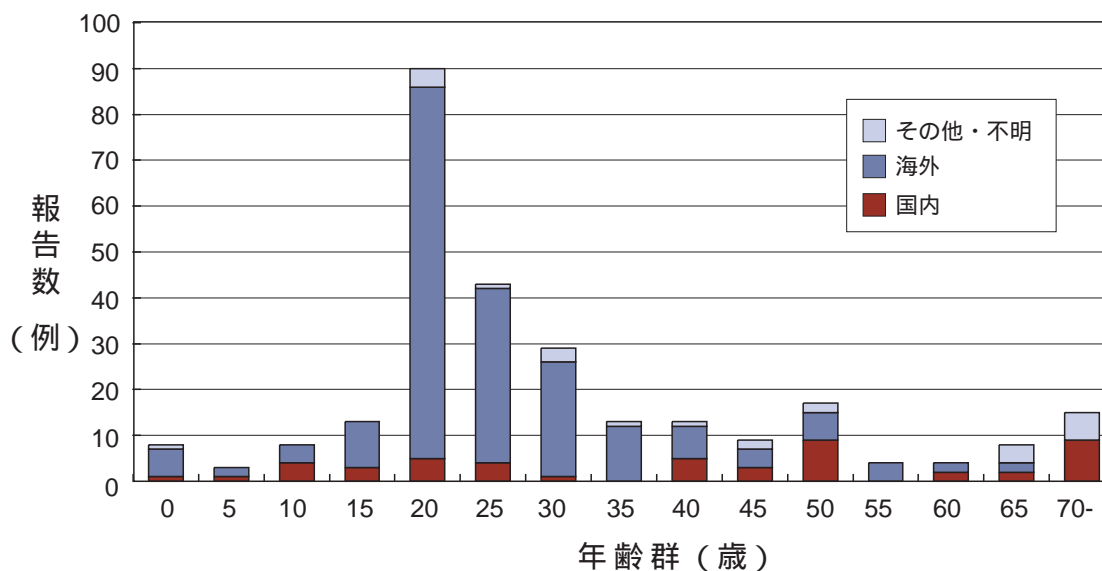
注目すべき感染症

腸チフス(その1)

腸チフスは *Salmonella Typhi* によって引き起こされる。この菌はヒトにのみ感染し病気を起こすとされている。ヒトの糞便で汚染された食物や水が疾患を媒介するが、感染源がヒトに限られているため、衛生水準の向上などにより罹患者数は減少している。わが国では、昭和初期から終戦直後までは年間約4万人の発生がみられていた。そして、1970年代までには環境衛生状態の改善によって、年間約300例の発生まで減少した。さらに強力な腸チフス対策が実施されて、1990年代に入ってから年間60～80例で推移している。それまで法定伝染病として報告されていたが、1999年4月の感染症法の施行により、2類感染症全数把握疾患となった。患者、疑似症患者および無症状病原体保有者(保菌者) を診断した医師は、直ちに保健所長を通じて都道府県知事に届け出るように決められている。

図に2000年以降の年齢群別推定感染地を示す。15～39歳の年代では海外での感染例が圧倒的に多く(88%)、10～14歳代、40歳以上(55～59歳代を除く) では国内例の報告も多い(以下次に続く)。

図：年齢群別推定感染地（2000年～2002年10月28日現在）





病原体情報

*グラフはIASRホームページ(<http://idsc.nih.go.jp/iasr/index-j.html>)からの引用です。
(2002年10月25日現在報告分)

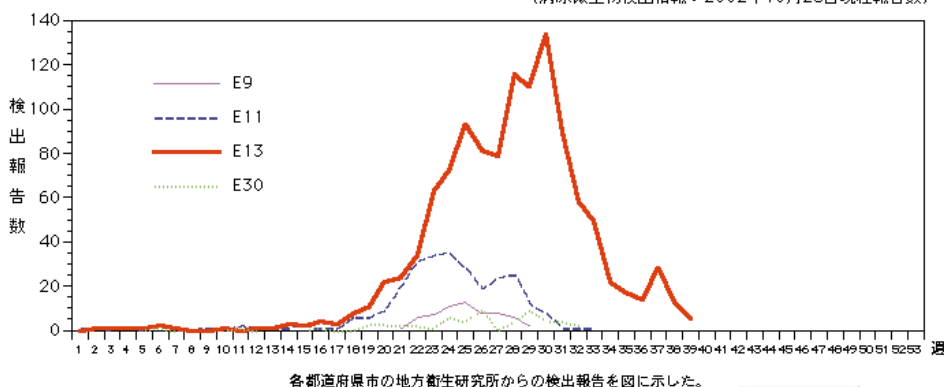
冬季の感染性胃腸炎関連ウイルス 2002/03シーズン

今シーズンのSRSVの検出として、ノーウォーク様ウイルス(NLV)genogroup(G)II 8件(愛媛県7、島根県1)、NLV G unknown が4件(福井県2、仙台市1、東京都1)報告されている。ロタウイルスは、A群が3件(東京都、福井県、島根県各1)報告されている。

無菌性髄膜炎患者から分離されたウイルス 2002年

エコーウイルス(E)1,592件(13型1,164、11型274、9型63、30型56、6型27など)、ムンプスウイルス53件、B群コクサッキーウイルス57件(2型26など)、A群コクサッキーウイルス5件の分離が報告されている。E13は第30週をピークとして減少していたが、第37週に青森県からの報告が増加したことにより、再度増加した。九州から東北地方にかけて36都府県(広島県305、大阪府81、新潟県、福井県各67など)から報告されている。

週別無菌性髄膜炎患者からの主なウイルス分離報告数、2002年
(病原微生物検出情報：2002年10月25日現在報告数)



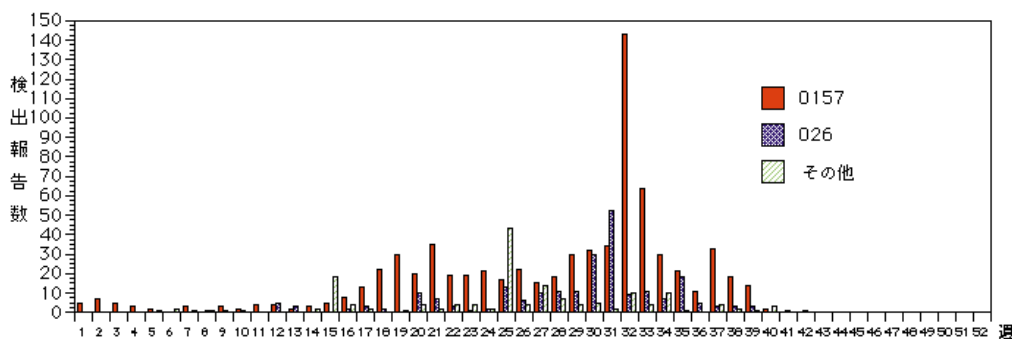
各都道府県市の地方衛生研究所からの検出報告を図に示した。



ヒトから分離されたVero毒素産生性大腸菌 2002年

検出総数は1,136件で、うちO157が739件(栃木県163、大阪府107、石川県73など)、O26が235件(長野県55、宮城県35、佐賀県28など)、O111が75件(佐賀県52など)、O121が29件(佐賀県23、秋田県5など)、その他の血清型が58件である。

週別Vero毒素産生性大腸菌検出報告数、2002年 (病原微生物検出情報：2002年10月25日現在報告数)



各都道府県市の地方衛生研究所からの検出報告を図に示した。





ウエストナイル熱に関する厚生労働省健康局長通知および届出のための基準など

健発第1029005号
平成14年10月29日

各 { 都道府県知事
政令市市長
特別区区长 } 殿

厚生労働省健康局長

感染症の予防及び感染症の患者に対する医療に関する法律施行規則の一部改正について

感染症の予防及び感染症の患者に対する医療に関する法律施行規則の一部を改正する省令(平成14年厚生労働省令第140号)は、平成14年10月29日をもって公布され、同年11月1日から施行されることとなったところである。

今回の改正の概要等は下記のとおりであるので、関係者に対して周知徹底を図り、その実施に遺憾なきを期されたい。

記

一 改正の概要

- ① ウエストナイル熱(ウエストナイル脳炎を含む。以下同じ。)を感染症の予防及び感染症の患者に対する医療に関する法律(平成10年法律第114号。以下、「法」という。)上の四類感染症とし、法第12条第1項に基づいてその患者について届出をすべき四類感染症(以下「全数届出の四類感染症」という。)とすること。これに伴い、法第14条第1項の届出において、ウエストナイル脳炎が急性脳炎に含まれなくなること。
- ② ウエストナイル熱を全数届出の四類感染症とすることから、医師は、ウエストナイル熱患者を診断したときは都道府県知事等に届け出なければならないこと。

二 感染症発生動向調査事業

感染症発生動向調査事業実施要綱(平成11年3月19日健医発第458号)中「第2 対象感染症」の「1.全数把握の対象(4)四類感染症」の「(13)アメーバ赤痢」の次に「(13の2)ウエストナイル熱(ウエストナイル脳炎を含む。)」を、「第5 事業の実施」の「2.全数把握対象の四類感染症(2)調査単位及び実施方法 イ保健所①」の「(13)」の次に「(13の2)」をそれぞれ加え、別記様式4-1を別紙に改める。

この実施要綱の改正は、平成14年11月1日から施行する。

なお、感染症発生動向調査事業はコンピュータ・オンラインシステムを用いて行っているとこ

るであるが、システムが整備されるまでの間は、ウエストナイル熱の取扱については電話による連絡の上で別記様式4 - 1をファクシミリすることとされたい。都道府県等から厚生労働省への報告の窓口は、国立感染症研究所感染症情報センター感染症発生動向調査担当(Tel 03-5285-1111(代表) Fax 03-5285-1129)とする。

ウエストナイル熱届出のための基準

1. 定義

フラビウイルス科に属するウエストナイルウイルスによる感染症で、蚊によって媒介される。

2. 臨床的特徴

2～14日の潜伏期の後に高熱で発症する。発熱は通常3～6日間持続する。同時に頭痛、背部の痛み、筋肉痛、食欲不振などの症状を有する。約半数で発疹が胸部、背、上肢に認められる。リンパ節腫脹も通常認められる。症状は通常1週間以内で回復するが、その後倦怠感が残ることも多い。特に高齢者においては、上記症状とともにさらに重篤な症状として、激しい頭痛、方向感覚の欠如、麻痺、意識障害、痙攣等の症状が出現し脳炎、髄膜脳炎を発症することがある。特に米国では重篤な例で筋力低下が約半数に認められている。

3. 報告のための基準

- ・診断した医師の判断により、症状や所見から当該疾患が疑われ、かつ、以下のいずれかの方法によって病原体診断や血清学的診断がなされたもの。
- ・病原体の検出：
例、ウエストナイルウイルスの血液や脳脊髄液からの分離
- ・病原体の遺伝子の検出：
例、PCR法等によるウエストナイルウイルス遺伝子の血液や脳脊髄液中での検出
- ・抗体の検出：
例、ウエストナイルウイルス特異的IgMの血液や脳脊髄液中での検出
ウエストナイルウイルス特異的IgGの検出とペア血清における4倍以上の上昇

関連リンク

ウエストナイル熱の診断・治療ガイドライン(厚生労働省ホームページ)

<http://www.mhlw.go.jp/topics/2002/10/tp1023-1a.html>

ウエストナイル熱・脳炎Q&A(厚生労働省ホームページ)

<http://www.mhlw.go.jp/topics/2002/10/tp1023-1b.html>

感染症トピックス「ウエストナイルウイルス」(国立感染症研究所感染症情報センター)

<http://idsc.nih.go.jp/others/infhk.html>

感染症の話「ウエストナイル熱 / ウエストナイル脳炎」IDWR2002年第27号(国立感染症研究所感染症情報センター)

http://idsc.nih.go.jp/kansen/k02_g2/k02_27/k02_27.html

2002年、米国ペンシルバニア州で発見された第2例目のバンコマイシン耐性黄色ブドウ球菌

黄色ブドウ球菌は病院感染、市中感染の最も一般的な起炎菌である。1988年にバンコマイシン耐性腸球菌(VRE)が報告されて以来、最小発育阻止濃度(MIC) 32 µg/mlを示すバンコマイシン耐性黄色ブドウ球菌(VRSA)の出現が危惧されていた。実験的には既に1992年にバンコマイシン耐性遺伝子 *vanA* を含む遺伝子が *Enterococcus faecalis* から黄色ブドウ球菌に移りうることが示されていた。また2002年7月にはVRSAによる初の感染症例が報告された⁽¹⁾。本稿ではこれに続く2例目のVRSA感染症例について報告する⁽²⁾。

この患者は9月20日にペンシルバニア州の病院に入院し、慢性足底潰瘍と骨髄炎の疑いで検査を受けていた。潰瘍からの培養で黄色ブドウ球菌が分離されたため、ディスク法によるバンコマイシン感受性検査とバンコマイシン6 µg/ml入りBHI培地への接種を行った。その結果この培地で発育が見られたこと、またディスク法での阻止円径も12mmしかなかったことからバンコマイシンへの感受性が低下していることが疑われた。さらにEtestでMIC = 64 µg/mlを示したことから、この黄色ブドウ球菌がバンコマイシン耐性であることが確認された。ペンシルバニア保健局(PDH)に届け出た後、この菌株をCDCに送付し、微量液体希釈法でMIC = 32 µg/mlと確定した。この菌株はオキサシリン耐性を担う *mecA* 遺伝子とバンコマイシン耐性を担う *vanA* 遺伝子の両方を保有していたが、クロラムフェニコール、リネゾリド、ミノサイクリン、キヌプリスチン/ダルホプリスチン、リファンピシン、スルファメトキサゾール/トリメプリムには感性だった。

患者は既に退院し、自宅での抗菌薬療法が奏功している。この病院ではPDHとCDCの支援を受けて病院感染対策、自宅での感染対策、他の患者、医療従事者、家族、その他関係者への伝播について調査を行っている。これまでのVRSA症例では患者以外への伝播の報告はない。

今回のVRSAが *vanA* を保有していることから、遺伝子をVREから獲得したことが推測される。このVRSAの発生は前回のミシガン州でのVRSAとは関係がないと考えられる。しかしいずれの事例も接合を通じた遺伝子の獲得による耐性化の可能性が高く、同様のVRSA感染症例が今後さらに起きることが予測される。臨床微生物検査室ではVRSAを検出できる感受性検査法を行い、また後で確認検査が行えるようにVRSA疑いの菌株を保存しておくことを徹底すべきである。さらに、体系的にVRSAをサーベイランスすることで公衆衛生当局や医療機関が早期にこの耐性菌を検出し対策を講じることができるはずである。

今回のVRSAの発生に対する公衆衛生上の対策は現在進行しつつある。適切な病院感染対策と抗菌薬療法によりVRSAなどの耐性菌の発生と拡散は食い止められるはずであり、CDCは耐性菌感染症の患者への医療では個室管理、手袋とガウンの着用、手洗いの励行、ケアに必要な物品の専用化などの接触予防策を取るよう奨励している。VRSAの拡散を予防するためのCDCガイドラインは、http://www.cdc.gov/ncidod/hip/10_20.pdf で入手できる。バンコマイシン耐性が確認された、あるいは疑われる黄色ブドウ球菌を分離した際には菌株を保存した上で、州あるいは郡の保健局を通じてCDCのNational Center for Infectious Diseases内Division of Healthcare Quality Promotion(電話800-893-0485)に連絡をされたい。

参考文献

- 1 . CDC, MMWR 51:565-567, 2002
- 2 . CDC, MMWR 51:902 2002

[注意] 日本国内でVRSAが疑われる耐性株が分離された場合は、国立感染症研究所細菌第二部(042-561-0771、内線500)または、感染症情報センターまで、御連絡下さい。

国立感染症研究所細菌第二部 土井洋平

(IASR2002年11月号掲載予定記事より抜粋、詳細は同号参照)



海外感染症情報

* 関連の情報やさらに詳しい情報については、FORTHホームページ(<http://www.forth.go.jp/>)をご覧ください。

セネガルでの黄熱 - 更新3

WHO/CSR 2002年10月25日

10月24日現在、保健省は黄熱患者41例と死亡者4例を確認した。流行はDiourbel州のTouba, Mbacke, Bambey地方と、Fatick州のGossas, Fatick地方で発生している。都市型流行が起きている Touba地方では、33例の患者が報告された。前回の更新以降の患者数の増加は検査完了に基づくものである。ほとんどの陽性結果は、Toubaで10月1日から開始されたワクチン接種キャンペーンより少し後の10月初旬に採血された検体由来であった。現在実施しているDiourbel州でのワクチン接種キャンペーンでは接種率が78～94%(Touba = 94%)を達成し、この州での疑い患者は減少している。

最近診断が確定した2例の発病日は、10月17日と20日であった。2例ともGossas地方からの報告であった。ワクチン接種キャンペーンが計画されたが、ワクチンの追加と計画実施の支援が必要である。

カナダでのウエストナイルウイルス - 更新6

WHO/CSR 2002年10月24日

10月22日現在ヘルスカナダは、累計96例のウエストナイルウイルス感染例を報告した。65例は疑い例で、31例が確定であり、そのうち1例は死亡例である。確定診断1例はアルバータ州住人であり、疑い11例と確定診断3例がケベック州住人であり、他の疑い164例と確定診断27例はオンタリオ州住人である。疑い例のうち2例が死亡している。この死因は調査中である。アルバータ州の確定診断1例とオンタリオ州の確定診断1例は、合衆国旅行中の感染と考えられ、他は居住地での感染と考えられている。

デング熱/デング出血熱 - 台湾

台湾CDC

<http://203.65.72.83/En/dpc/ShowPublication.ASP?RecNo=801>

10月17日現在、デング熱確定患者数の報告

高雄市1,602例、高雄県1,561例、他地域160例(台北市4、台北郡8、桃源郡6、新竹市1、台中郡1、台中市1、雲林郡1、南投郡1、嘉義郡2、嘉義市2、台南郡10、台南市20、屏東郡99、花蓮3、澎湖島1)、合計で3,323例の国内発生があり、台北市と台北郡の1例を除き、全例が高雄の南投か平潭で感染した。これ以外に40例の海外輸入例が報告された。デング出血熱(DHF)確定診断例は83例、診断確定したDHFによる死亡例は10例(高雄市4例、高雄県6例)で、全例34歳以上の成人であった。

古典的デング熱の致死率は1%以下であるが、デング出血熱の致死率は適切な治療を行わない場合15～50%に上る。高雄地域の現在の致死率は適切な医学的治療を行っても12%にのぼり、DHFは非常に危険な疾患であることを示している。台湾CDCは、発熱、頭痛、筋肉痛や、より重篤な異常出血(鼻出血、吐血、下血、性器出血、血尿)、ショック、不隠、皮膚冷感や冷汗、チアノーゼ(皮膚が青くなる)、四肢末梢の体温低下、錯乱、意識低下などの症状が現れた場合には受診するよう呼びかけている。医師はこの疾患を今後とも警戒し、白血球数減少、血小板数1万以下、出血、腹水、胸水貯留、血清アルブミン低下、ヘマトクリット値の20%増加(18歳未満は

Ht 42%以上、18歳以上は男性で50%以上、女性で45%以上)の症状が見られた場合にはDHFを疑う必要がある。DHFを疑う場合には速やかに治療を行うとともに、管轄保健当局に速やかに報告しなければならない。

台湾CDCによると、過去に異なる血清型のデング熱の感染既往があると、デング出血熱を起こすリスクが高まる。このため、デング出血熱を防ぐ方法は、デングウイルスを媒介する蚊の生育場所を除去することである。

デング熱 - 香港

香港政府情報センター 2002年10月17日

保健省は10月17日、デング熱患者輸入例2例を新たに確定し、この疾患の予防を呼びかけた。

保健省によると一例は28歳女性で、発熱、頭痛、筋肉痛、関節痛、発疹などで9月28日に発病し、10月1日に入院した。その後、回復し退院した。この患者は東南アジアを旅行した後の発病で、輸入例と分類された。

もう一例は38歳女性で、10月10日に発熱、頭痛、筋肉痛、発疹などで発病した。現在、状態は安定している。この患者は東南アジア旅行後の発病であり、輸入例と分類された。

中国国民は蚊の刺咬の予防手段を取るよう留意し、積極的に蚊の生育場所を除去するよう以下の事が求められている。

- ・空き缶やボトルをふたのあるゴミ箱に入れること。
- ・花瓶の水を週1回以上交換し、花瓶受けには水を残さないこと。
- ・水の入った容器、井戸、貯水タンクはきっちりと蓋をする。
- ・水抜き穴を詰まらせないこと。
- ・長袖・長ズボンを着用する。
- ・露出部には防虫剤を塗布する
- ・空調のない部屋では網戸や蚊帳を使用する。

2002年現時点で39例の確定患者が報告された。このうち19例は輸入例で、20例は国内発生である。

フランス南西部でのC群髄膜炎菌ワクチン接種

Eurosurveillance 2002年10月24日

フランスで、1995~2000年間の侵襲性C群髄膜炎菌感染(IMIC)の罹患率(未報告分調整)が人口10万人当たり0.14から0.24人に増加したが、さらに2001年には0.40に増加した。このことで、侵襲性髄膜炎菌感染(IMI)全体が増加し、また、IMIのうちIMICの占める割合は23%から35%に増加した。

フランスではIMIは全例報告の疾患である。フランスでは、報告されたIMIC症例数は2000年には104例、2001年には176例であった。2001年には、フランス国内の6州でIMIC罹患率が人口10万人当たり0.8人を越えた。Puy-de-Domeで最も罹患率が高く、2002年初頭にはワクチン接種キャンペーンが実施された。他の5州のうち2州がフランス南西部3州のうちの2州であった。2002年に

はこの地域におけるIMICの疫学的状況は悪化しており、1月1日から40週(10月4日)までに、推定人口1,150,000人に対し25例のIMICが診断された。これは人口10万人当たり2.2人の罹患率に相当し、一方、この地域を除いた罹患率は0.26であった。これ以外に、B群患者2例と血清型不明の症例が3例報告され、IMICの割合は83%を占めた。2002年40週までの罹患率の上位3州の罹患率は、3.1(Hautes-Pyrenees)、2.0(Pyrenees Atlantiques)、1.8(Landes)であった。これらの州内で特に罹患率の高い地域はなく、隣接州の罹患率も異常な高値を示さなかった。IMICの25例のうち13例(52%)は年齢5 ~ 19歳の小児で、同時期の他地域では27%であった($p=0.01$)。激症の紫斑病は56%(14/25)で見られ、他地域では38%($p=0.08$)であった。致死率は20%(5/25)で、他地域では17%($p=0.9$)であった。

国立髄膜炎菌紹介センターでは22種類の遺伝子型を同定した。16種類は培養で、6種類はPCR法であった。表現型ではC:2aが主であった。遺伝子タイピングではほとんどがET-37であった。

10月9日に保健省は、Hautes- Pyrenees, Pyreneess Atlantiques, Landesに居住するあるいは通学する2カ月齢から20歳までの全員、および21 ~ 24歳でリスクのある人に対しワクチン接種を行うよう勧告した。また、この3州へ旅行し、現地住人と同居する2カ月齢 ~ 24歳の旅行者にもワクチン接種をするよう勧告した。この接種キャンペーンの対象者は35万人にあたる。10月7日からワクチン接種開始の10月21日の間に、この地域からIMIC死亡例1例が新たに報告された。

他国でも近年IMICに対する予防接種キャンペーンが開始されてきた。カナダでは局地的な流行発生後の1990年代に開始された。英国では、拡大サーベイランスによるC群髄膜炎菌感染症が大きな社会問題となっているため、予防接種キャンペーンが実施され、効果を上げた。

人工内耳植え込み者に対する肺炎球菌ワクチン、2002年 - 米国

CDC/MMWR 51, No.41, 931, 2002

米国で2002年10月4日までに、人工内耳植え込み者における髄膜炎が53例報告された。細菌培養検査が実施された23例中16例が肺炎球菌によるものであった。肺炎球菌ワクチン接種は、肺炎球菌による髄膜炎罹患のリスクが高い人に対して推奨されている。予備的な調査結果により、人工内耳植え込みは肺炎球菌による髄膜炎のリスク因子であることが示唆されたため、現在、人工内耳植え込み者全員に対して、年齢に応じた肺炎球菌ワクチン接種(7価結合型ワクチン、あるいは23価多糖体ワクチン)が推奨されている。



感染症の話

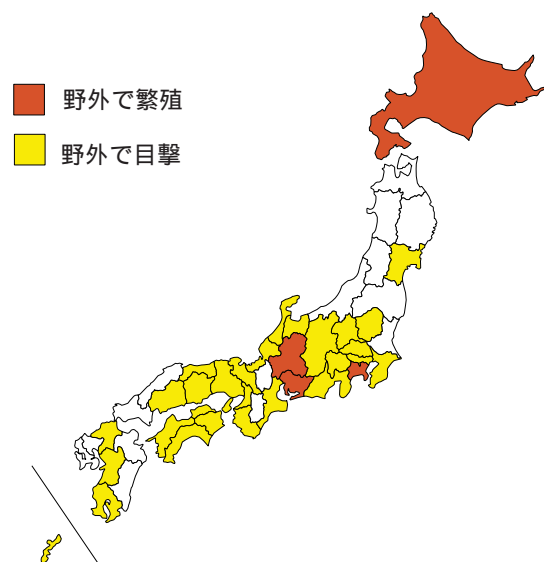
アライグマ回虫による幼虫移行症

北米原産のアライグマに普通に見られるアライグマ回虫(*Baylisascaris procyoni*)は基本的にアライグマ以外の動物で成虫になることはないが、ヒトがその虫卵を経口摂取すると幼虫移行症を引き起こし、致死的な中枢神経障害の原因となる。わが国にも北米から移入されたアライグマが多数生息するため、それらからヒトへの感染を防ぐ注意が必要となっている。

疫学

米国においては1981年の初発例以来、アライグマ回虫の感染を原因とする重症脳障害患者が少なくとも12例確認され、そのうち10例は6歳以下の小児で、3名が死亡している。わが国では、人への感染事例は、現在まで報告されていない。しかしながら、動物園および観光施設で飼育されているアライグマには本虫の寄生が見つかっており、最近、東日本の観光施設のウサギ群にアライグマ回虫による脳幼虫移行症が発生していたことが明らかになった。わが国では1977年のアライグマを主人公としたテレビアニメーション放映によるブーム以来、多い年には年間1,500頭を数えるアライグマが輸入されてきた。その結果、諸施設や一般家庭で飼育されたアライグマは現在までに総計2万頭を越えると推計され、その一部が飼育しきれずに逃亡や遺棄されたため、野外で定着・繁殖している現状がある。これらの「野生アライグマ」は、全国の47都道府県のうち32都道府県で確認されている(図1)。我々の調査では現在のところ(2002年10月現在) これらの「野生アライグマ」からはアライグマ回虫の寄生例は確認されていない。

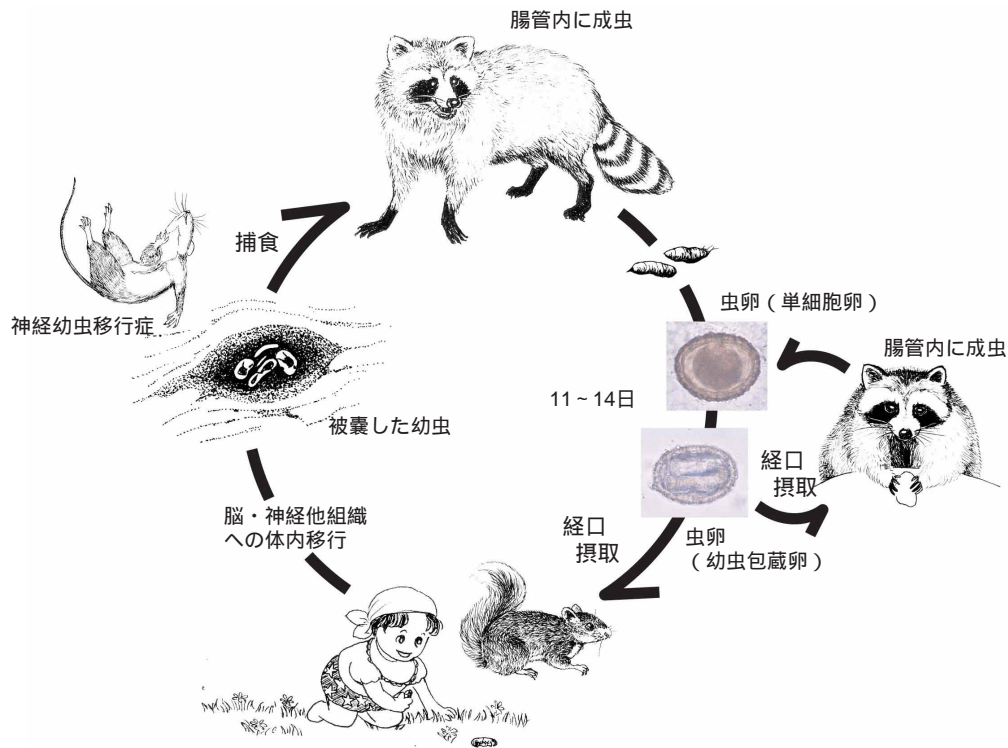
図1. わが国におけるアライグマの野外分布状況



病原体

アライグマ回虫の成虫は円筒形で、長さが雄で9～11cm、雌で20～22cmあり、アライグマの小腸に寄生する。虫卵は糞便を通じて外界に放出されるが、115,000～179,000個/雌虫/日という膨大な産卵量がある。これらの虫卵が適当な温度条件のもとで11～14日経過すると卵内に感染幼虫が育ち、幼虫包蔵卵となり、これが病原体となる。本虫がアライグマ体内で寄生が成立する経路には二つある(図2)。第一は幼虫包蔵卵を直接経口摂取することで成虫にまで発育する経路で、第二は体内組織にアライグマ回虫の幼虫を宿しているネズミなどの小動物を捕食すること、つまりある程度発育した幼虫を摂取することで感染が成立し、成虫にまで発育する経路である。ヒトおよびネズミなどの小動物では幼虫包蔵卵を経口摂取したとき、それらは成虫にまで発育できず幼虫のまま体内各所を移動する。そして、固有宿主のアライグマでは認められない激しい病気を引き起こすことになるが、これをアライグマ回虫による幼虫移行症と呼ぶ。

図2. アライグマ回虫 (*Baylisascaris procyonis*) の生活史



臨床症状

アライグマ回虫による幼虫移行症の病害程度は、摂取した虫卵の数と幼虫の移行部位に依存する。

1) 神経幼虫移行症: 好酸球性髄膜脳炎として発症する。一命を取りとめた症例でも、発育障害や神経系の後遺症が認められる。

2) 眼幼虫移行症: 成人を中心に一側性の網膜炎として発症する。視力障害が残り、失明することもある。アライグマ回虫による幼虫移行症は、イヌ回虫やネコ回虫に起因するヒトの幼虫移行症に比べて重篤な場合が多い。これは、体内移行中の幼虫がイヌ・ネコ回虫では0.5mm以下であるのに対して、アライグマ回虫では2.0mm近くにまで急速に発育して体内を移行し、特に中枢神経系での障害が激しいためである。

我々はマウスに幼虫包蔵卵を実験的に経口投与し、その症状を観察した。



図3. アライグマ回虫実験感染マウスの症状

50個の虫卵を投与した結果、感染後7日目に分泌物が滲出して目を開けられなくなる「閉眼」、一定方向にぐるぐると輪を描くように回り続ける「旋回運動」、終始首を傾けたまま運動する「斜頸」、体を転げ回らせる「横転(さらに痙攣して失禁)」などの特徴的な神経症状を認めた(図3)。感染後10日から死亡する個体もあり、解剖して調べると脳から虫体が回収された。虫体は体長が約1.2mmにも達し、感染幼虫(体長約0.27mm)の4倍以上に発育していた(図4)。大脳の病理組織標本には、皮質を移行中の虫体の断面が認められた(図5)。



図4. 脳から回収された幼虫

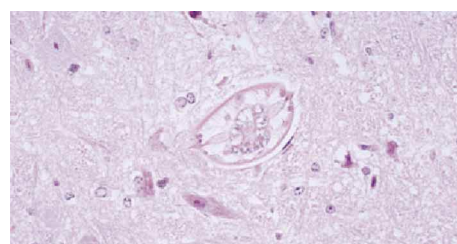


図5. 脳組織内の幼虫

病原診断

アライグマ回虫卵で汚染された環境内で突然の好酸球性髄膜脳炎が発生した場合には、本症を疑う必要がある。脳脊髄液好酸球増多、末梢血好酸球増多、MRIでの深部白質異常、および脳脊髄液や血清での特異抗体の検出により診断が行われる。眼幼虫移行症では、検眼鏡により虫体が検出されて診断されたヒト症例も報告されている。

治療・予防

幼虫による中枢神経(系)への障害に関しては、抗線虫薬や抗炎症剤による治療効果は期待できない。しかし、感染後1～3日の時期では抗線虫薬(アルベンダゾール、20～50mg/kg/日、10日間)によって中枢神経(系)へ侵入する以前に駆虫できる可能性がある。アライグマ回虫卵を飲み込んで感染の可能性がある場合には、直ちに抗線虫薬の経口投与が推奨されている。

アライグマの糞に含まれている可能性があるアライグマ回虫卵が唯一の感染源であるので、アライグマの糞で汚染された土壌その他を口に入れるのを避けることが重要である。わが国でのアライグマは、(1)動物園その他で展示用に飼育されているもの、(2)施設や家庭でペットとして飼育されているか、動物業者の元にいるもの、(3)「野生化」して野外で生活しているもの、などのいずれかである。このうち(1)と(2)の飼育群に関しては糞便検査を行い、アライグマ回虫の寄生が認められた個体について抗線虫薬による駆虫を確実にを行う。また、寄生個体が1頭でも見つかったアライグマ飼育場や展示場においては、虫卵の不活化処理を完全に行うことが必要である。虫卵を死滅させるには薬剤は殆ど効果がなく、煮沸・焼却などの高温での処置のみが有効である。また、(3)の「野生化」アライグマに関しては直接の接触を避け、アライグマが糞をする場所には近づかないなどの注意が必要である。

(国立感染症研究所寄生動物部 川中正憲 杉山 広 森嶋康之)



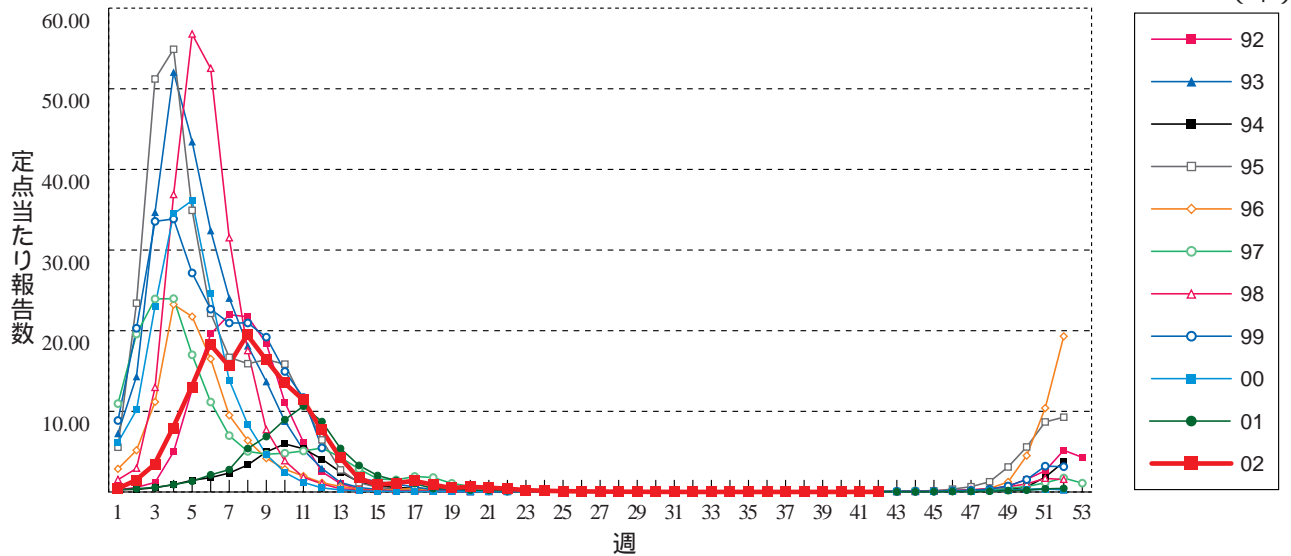
読者のコーナー

「読者のコーナー」では読者のみなさまからのご意見・ご質問をお待ちしております。
ご意見・ご質問は、題名(タイトル)の一番はじめにidwr-Q:をつけてこちらまでEメールでどうぞ。

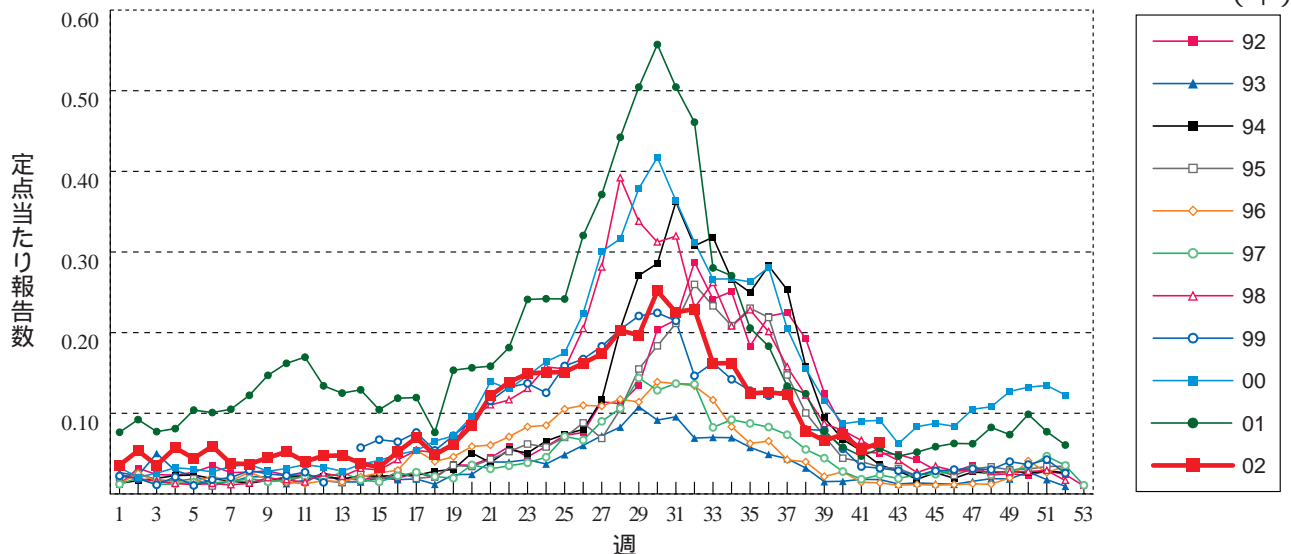
idsc-query@nih.go.jp

グラフ総覧(4 2 週)

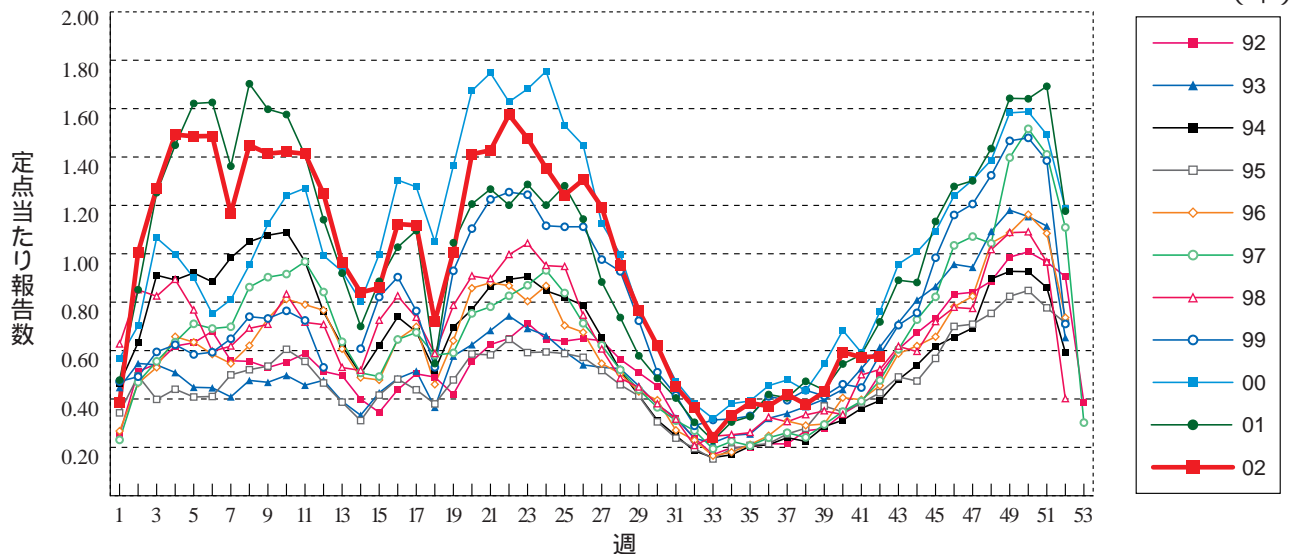
インフルエンザ



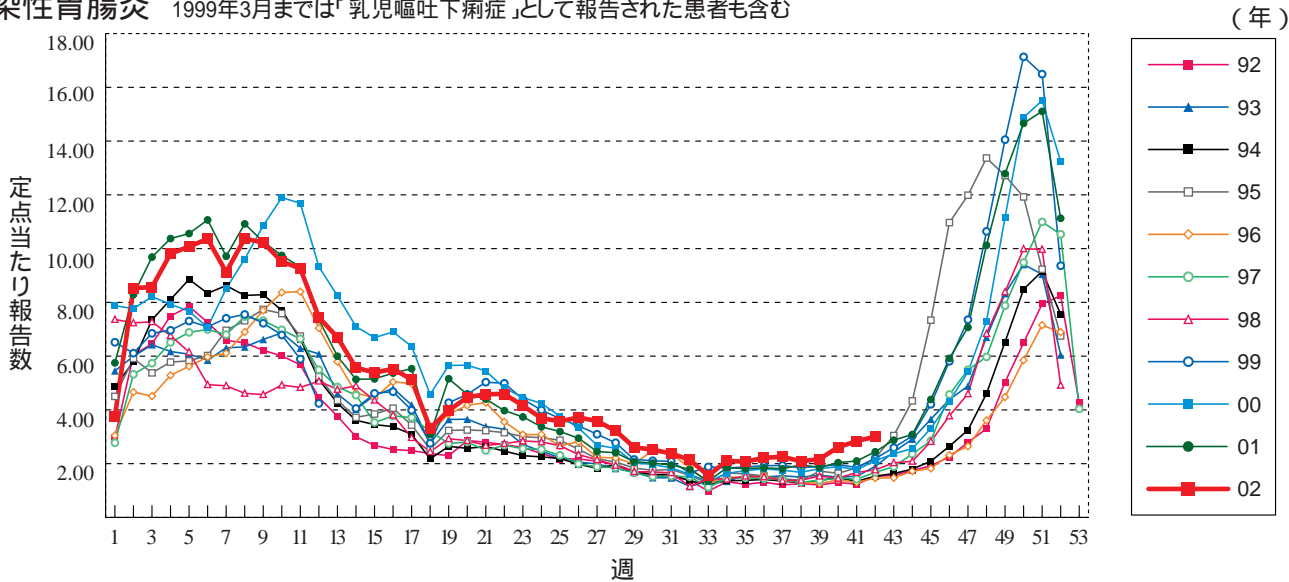
咽頭結膜熱



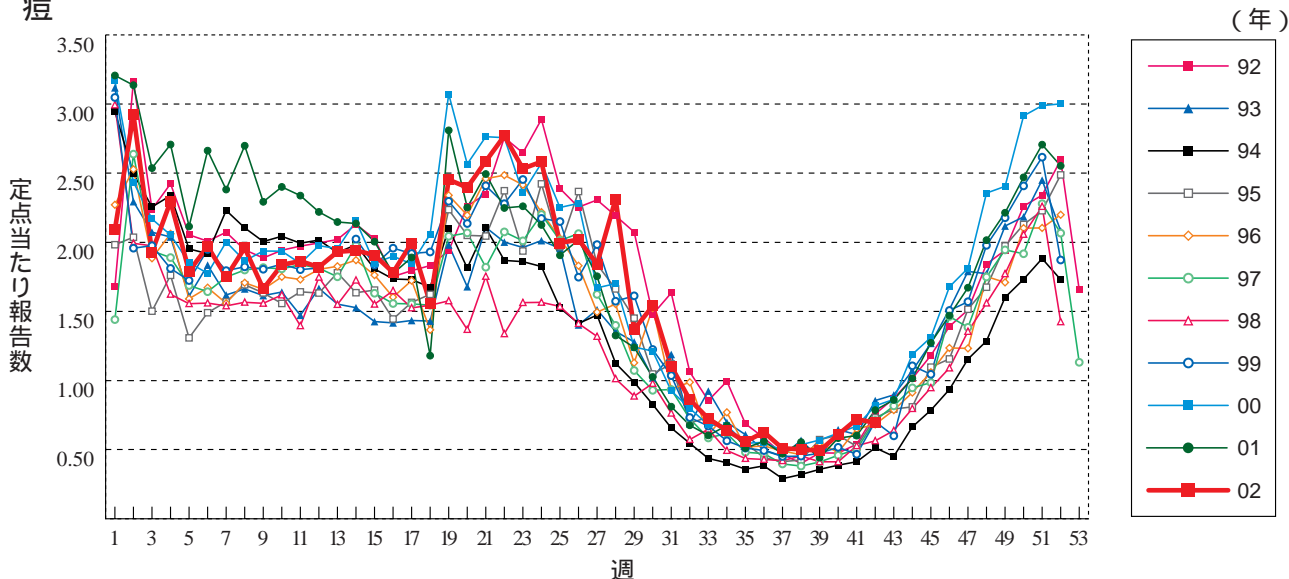
A群溶血性レンサ球菌咽頭炎



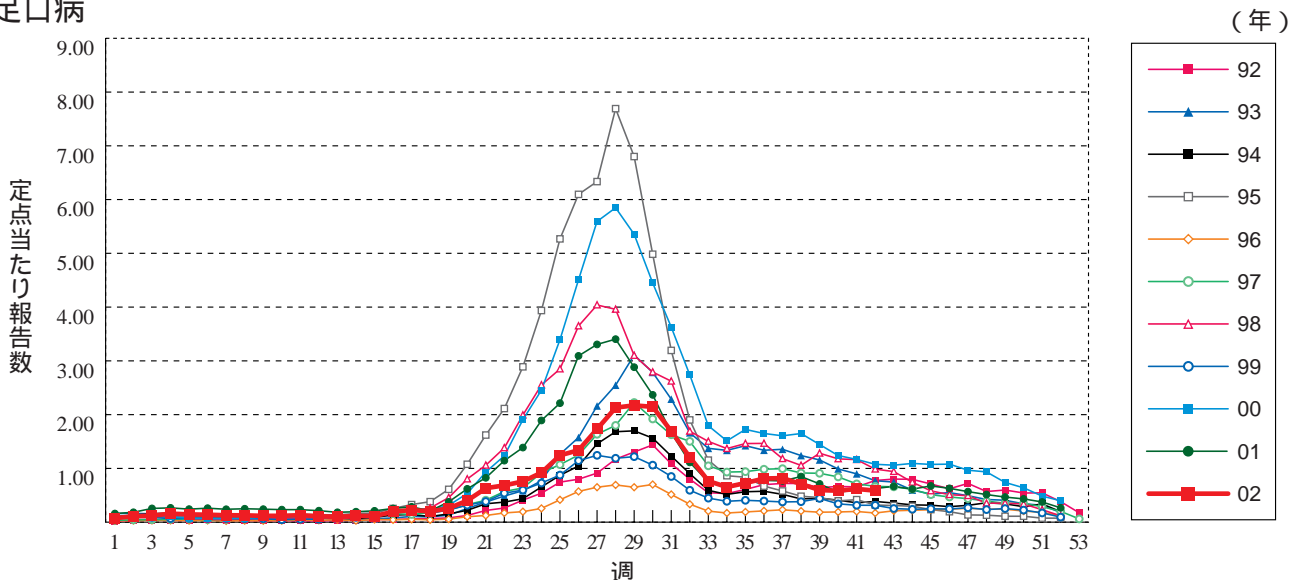
感染性胃腸炎 1999年3月までは「乳児嘔吐下痢症」として報告された患者も含む



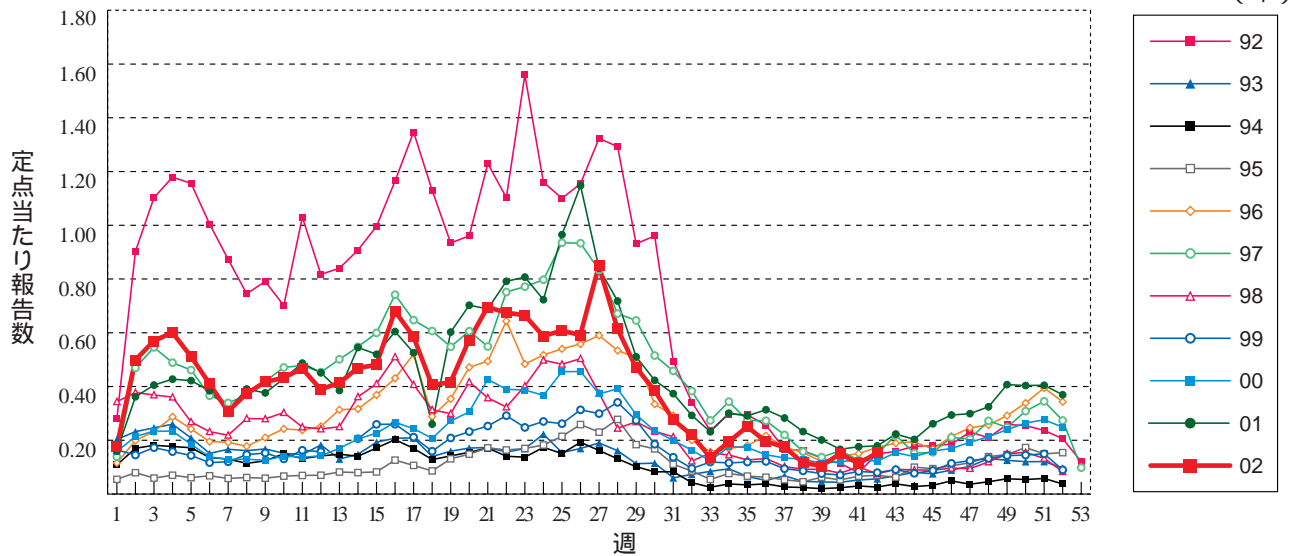
水痘



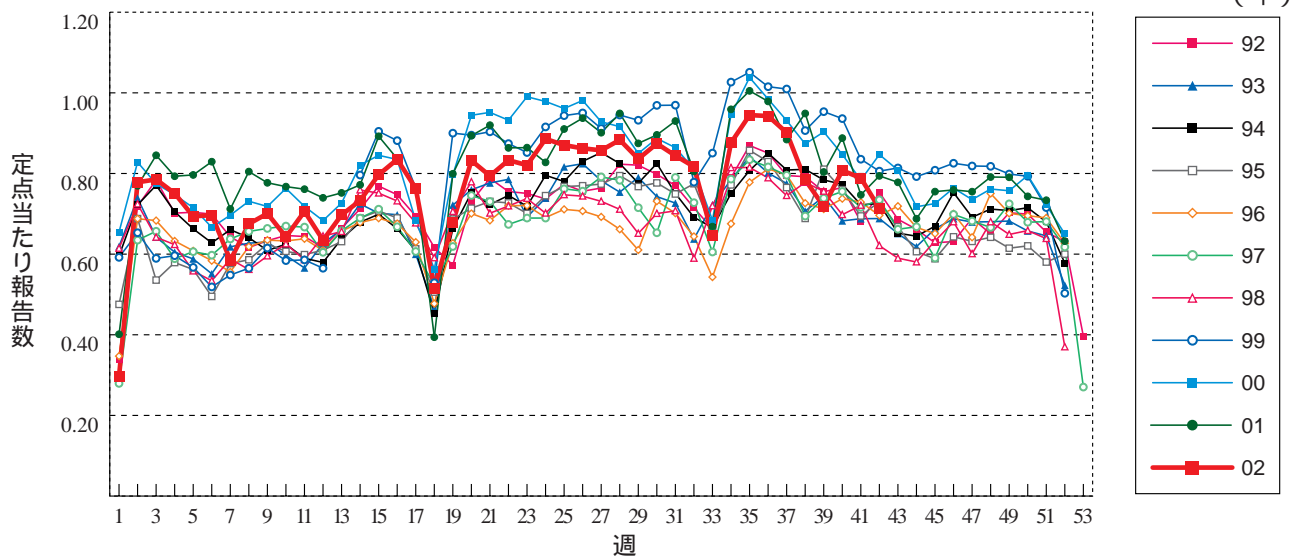
手足口病



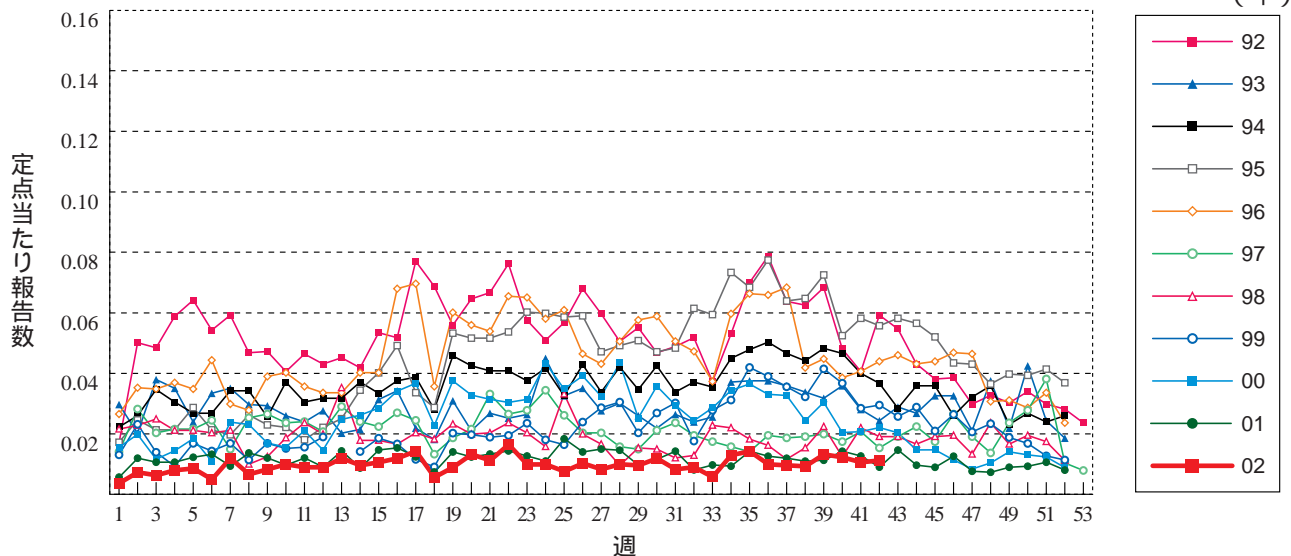
伝染性紅斑



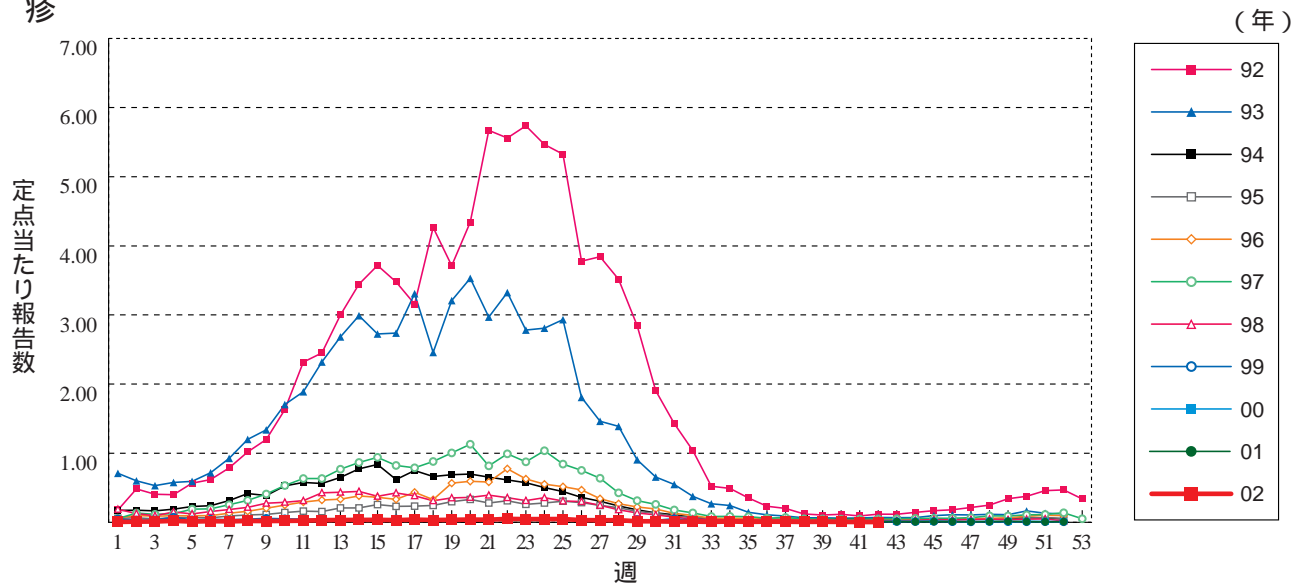
突発性発疹



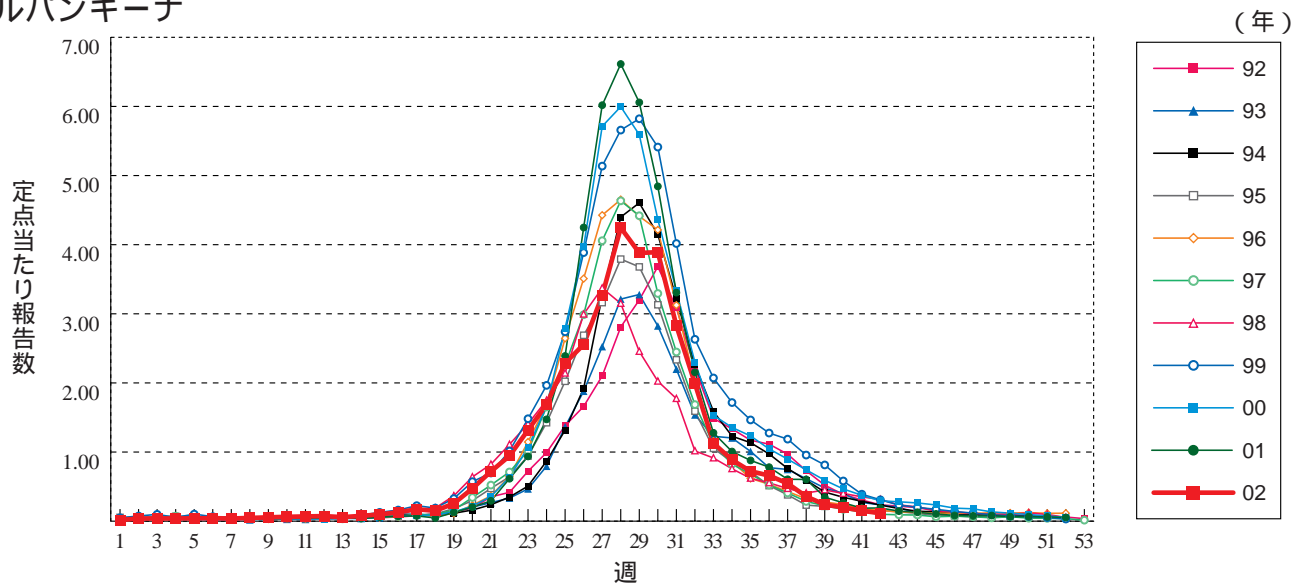
百日咳



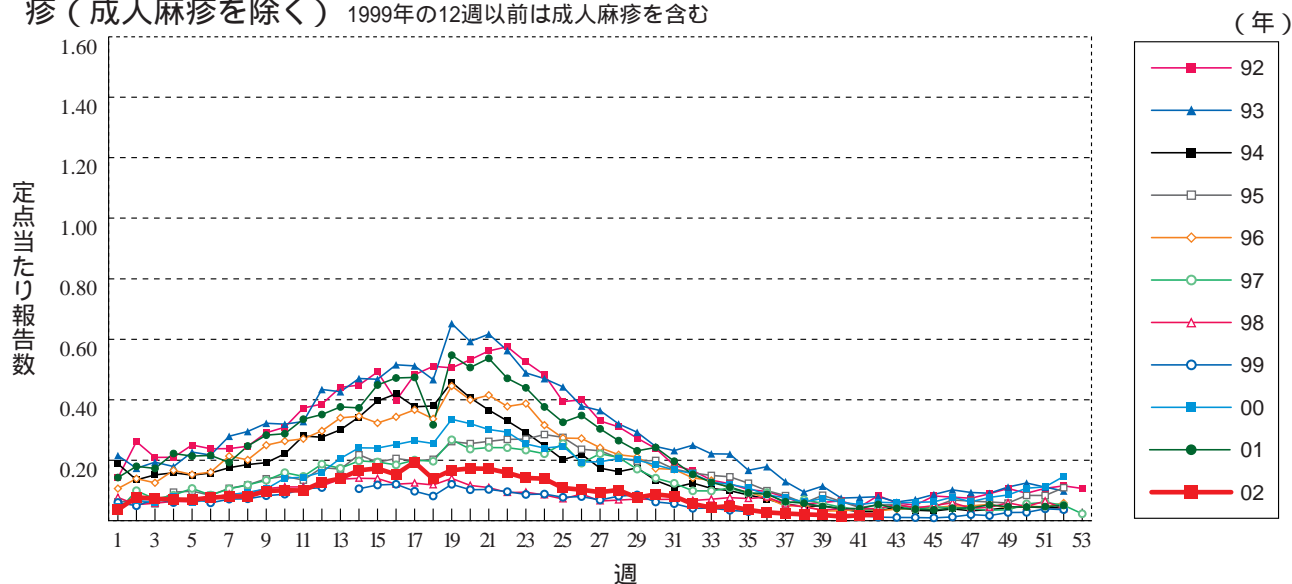
風 疹



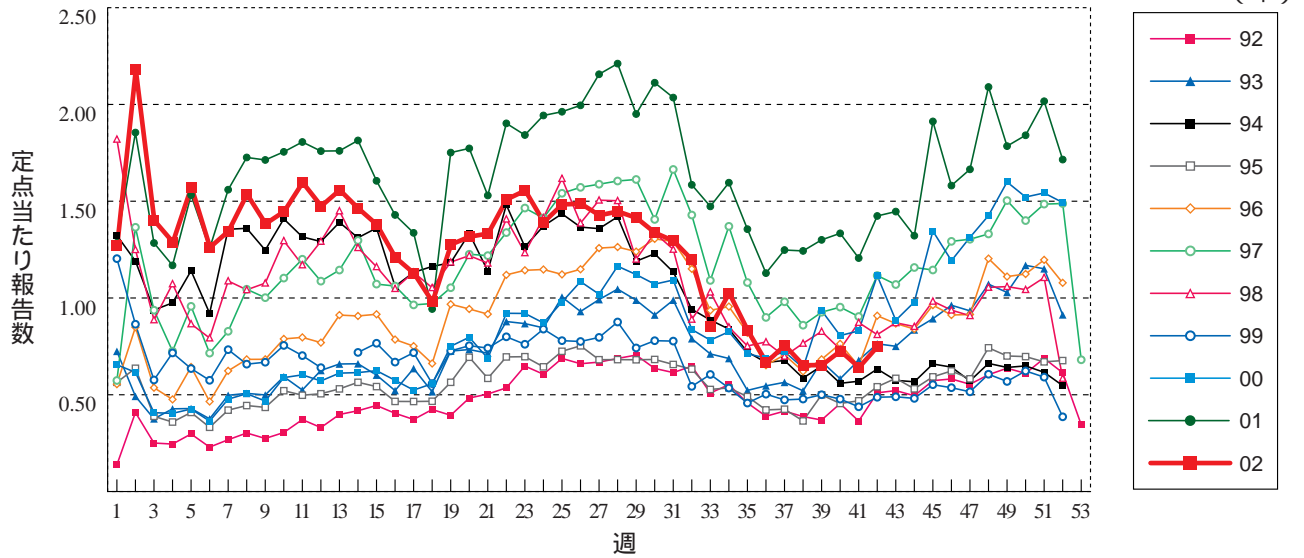
ヘルパンギーナ



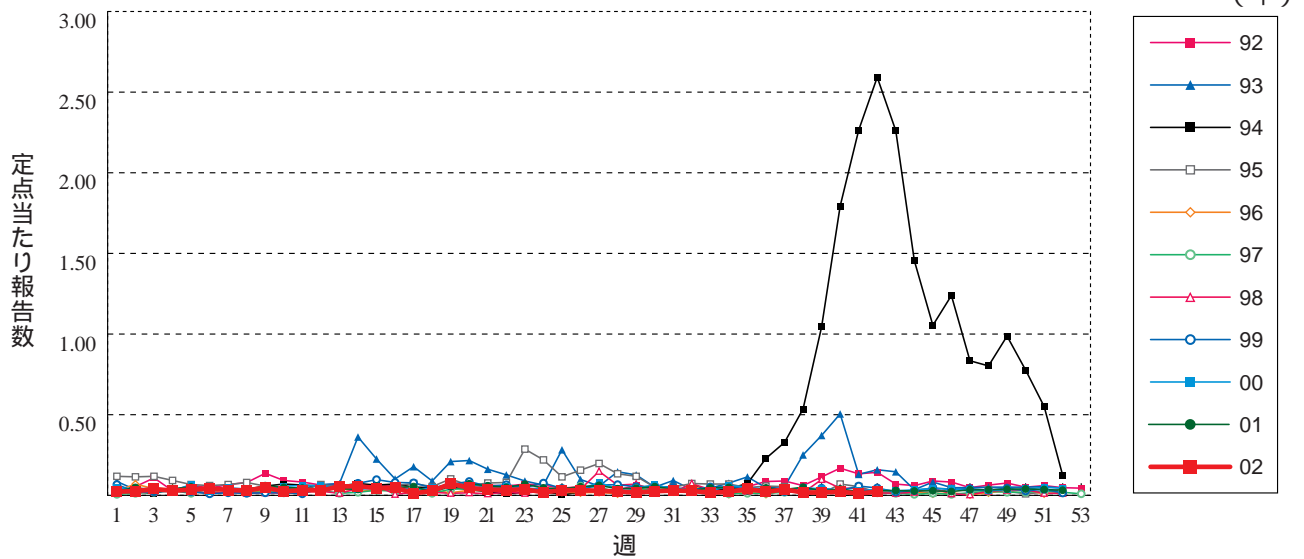
麻 疹 (成人麻疹を除く) 1999年の12週以前は成人麻疹を含む



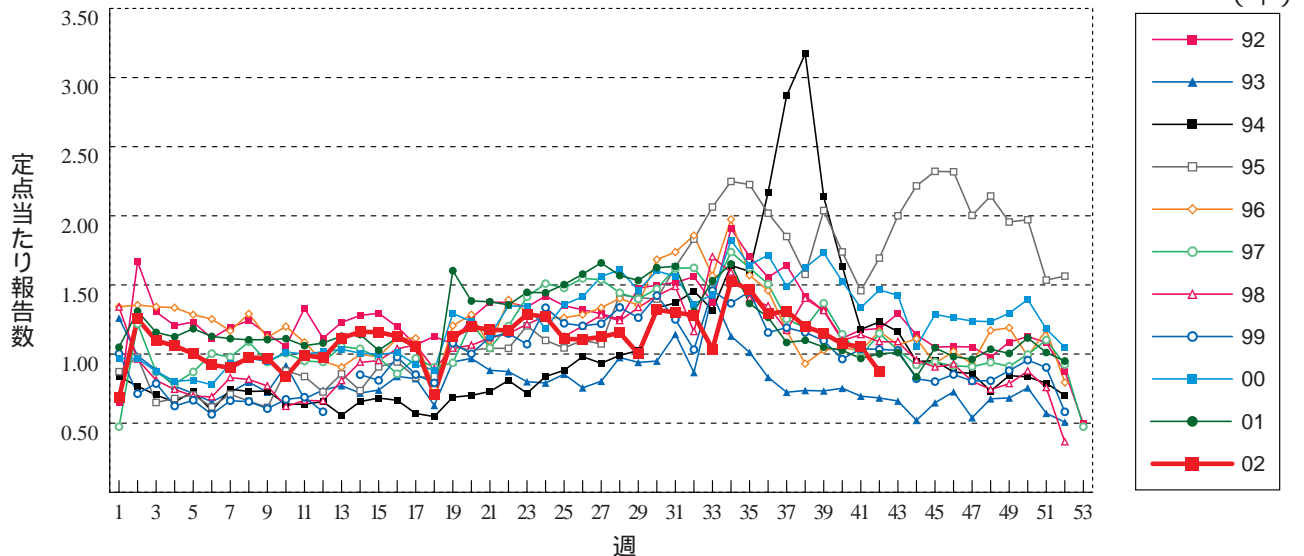
流行性耳下腺炎



急性出血性結膜炎

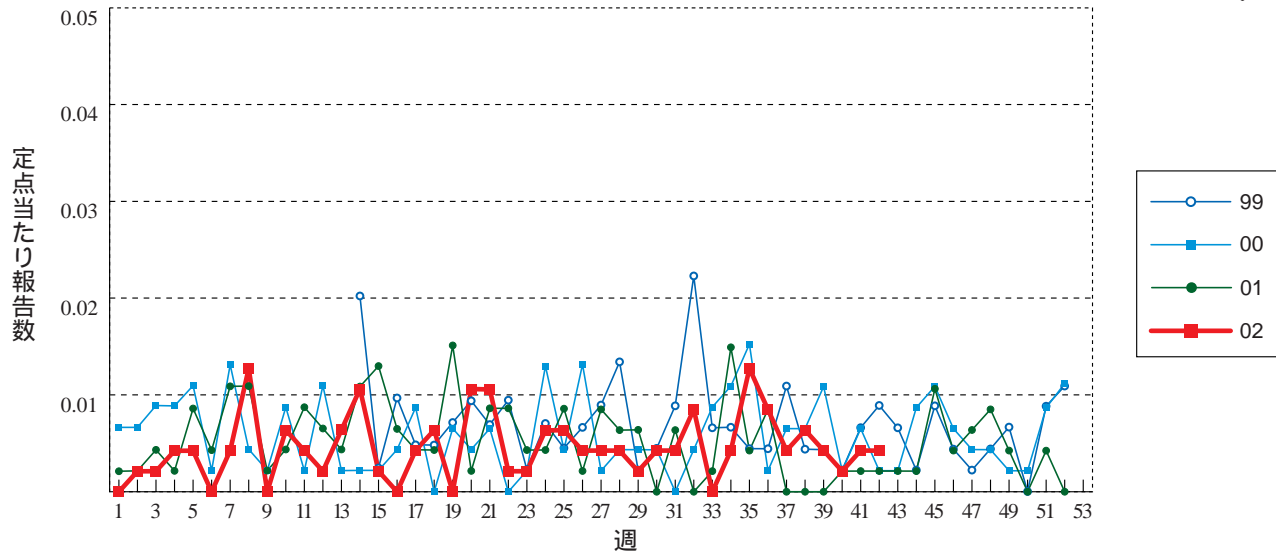


流行性角結膜炎



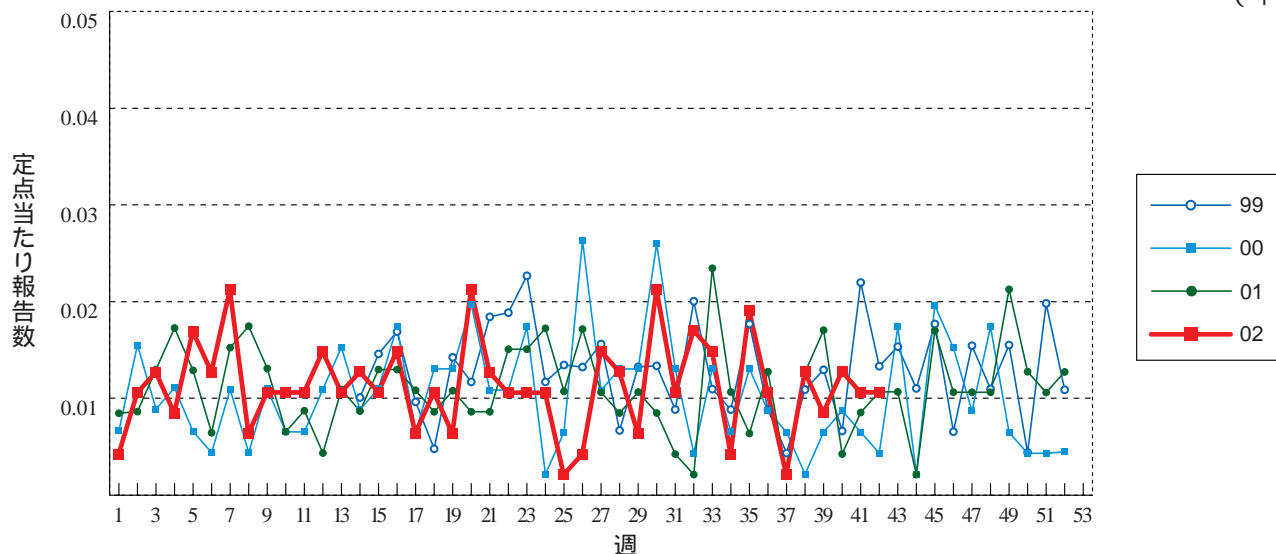
急性脳炎 (日本脳炎を除く)

(年)



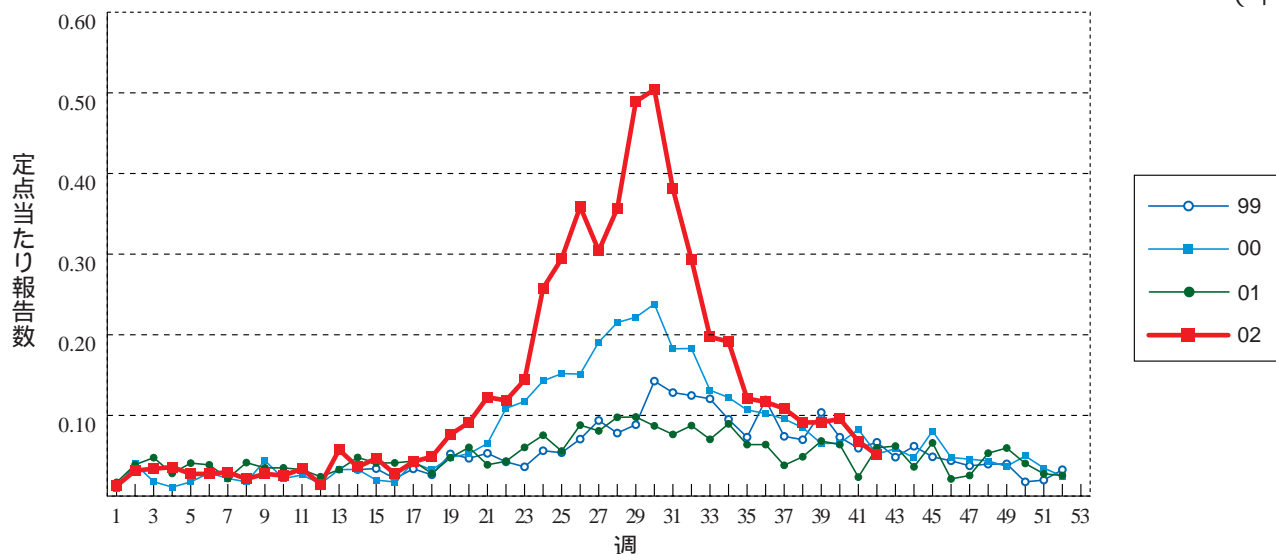
細菌性髄膜炎

(年)

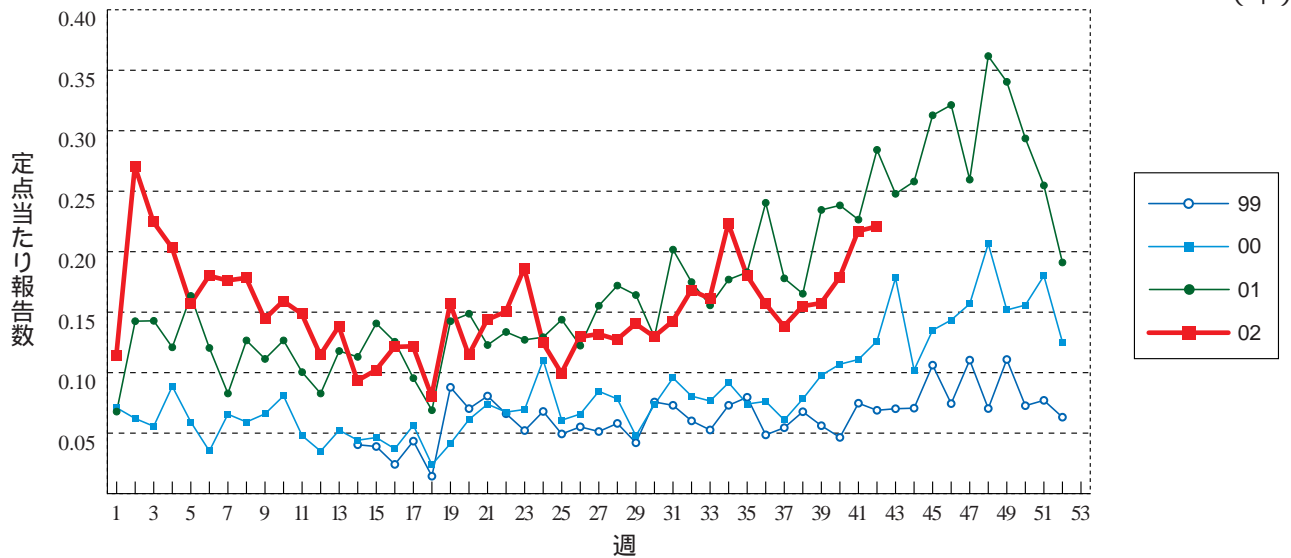


無菌性髄膜炎

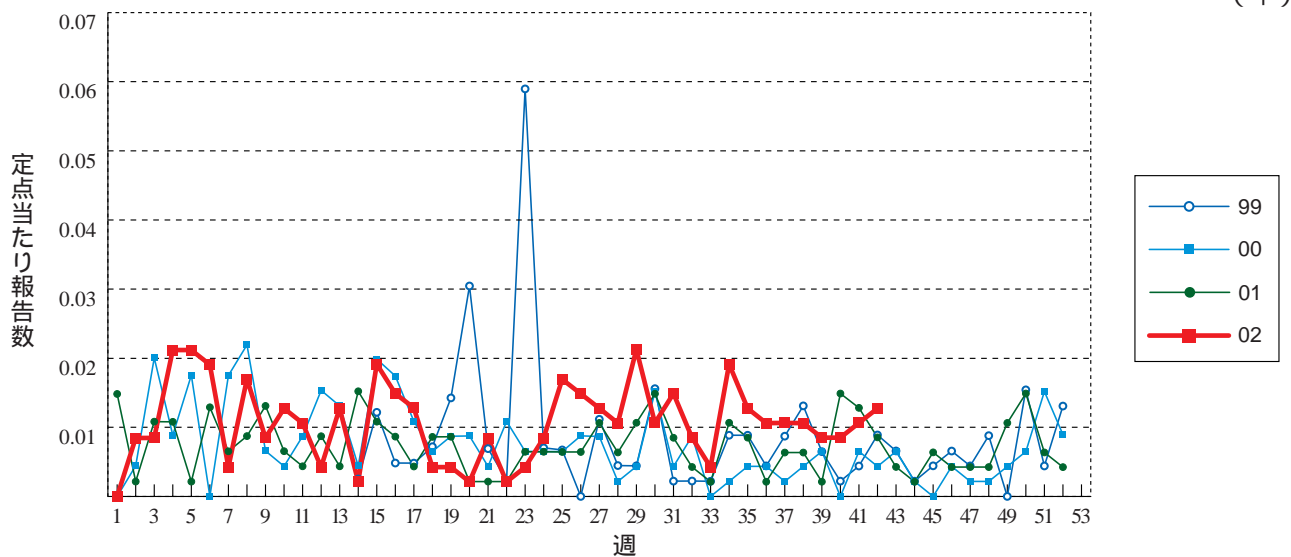
(年)



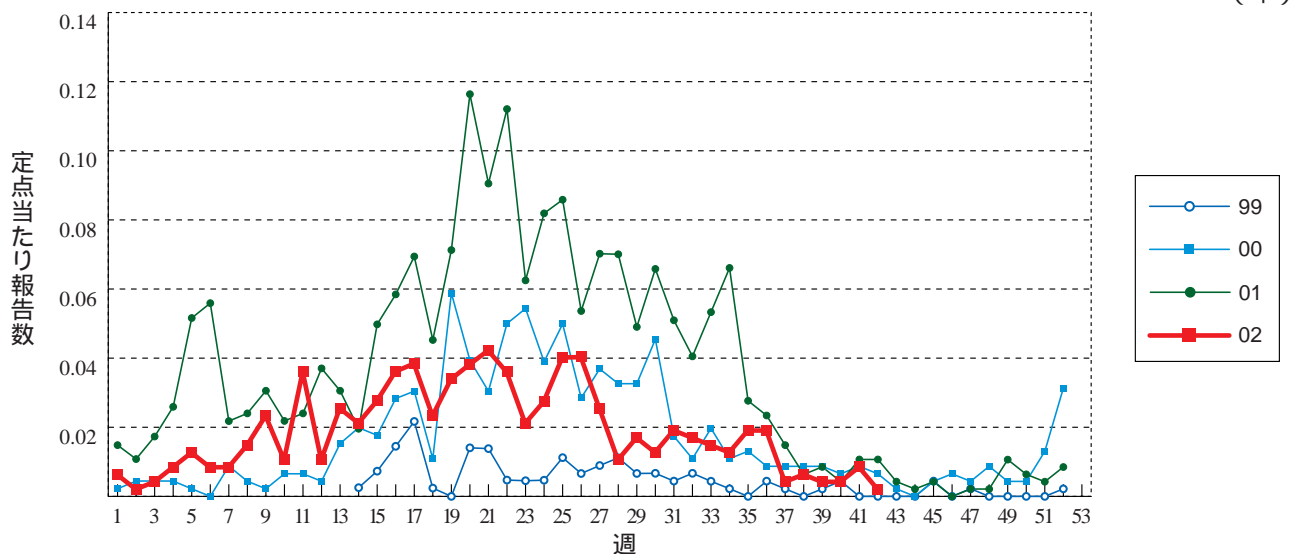
マイコプラズマ肺炎



クラミジア肺炎 (オウム病を除く)



成人麻疹

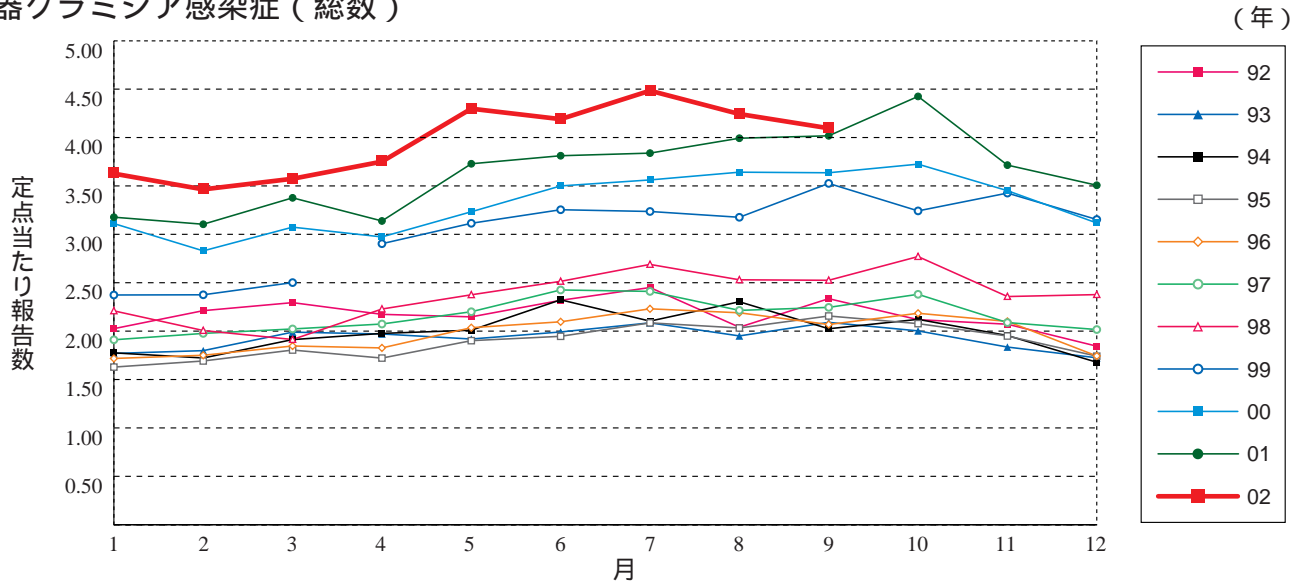




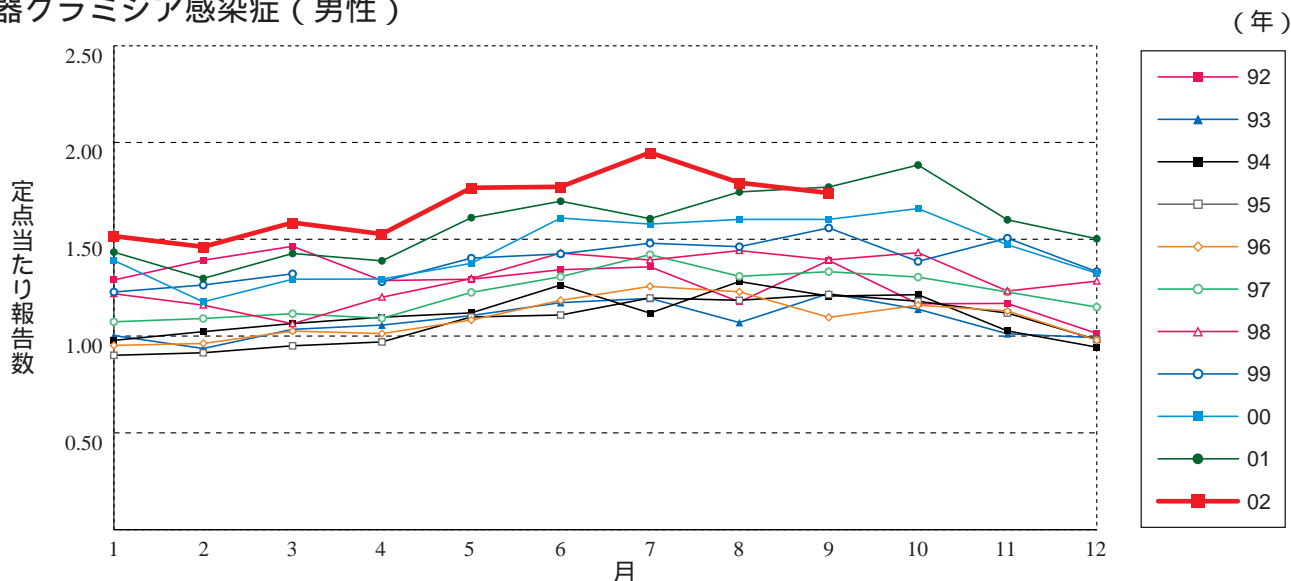
グラフ総覧(9月)

注)1999年4月以降は定点設定が変更されております。

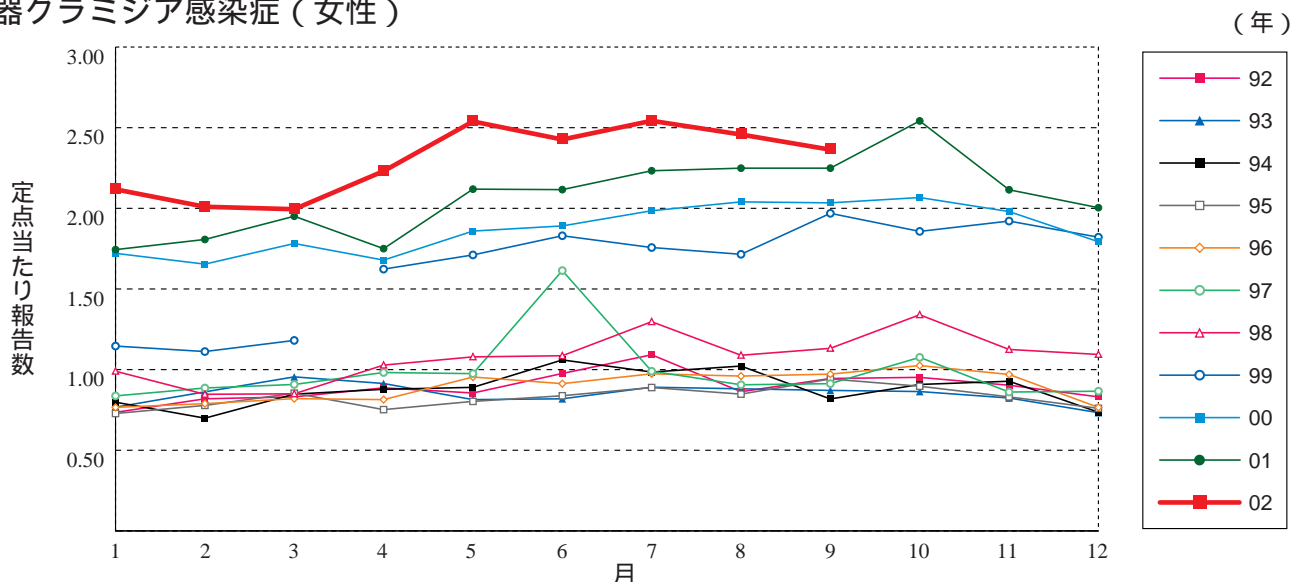
性器クラミジア感染症 (総数)



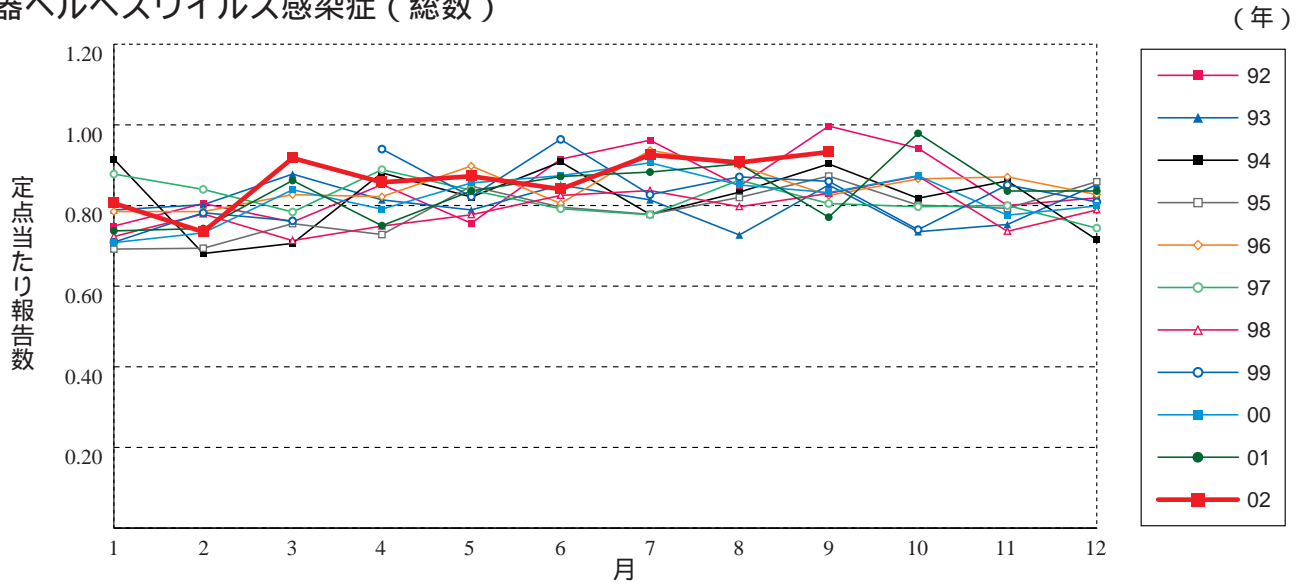
性器クラミジア感染症 (男性)



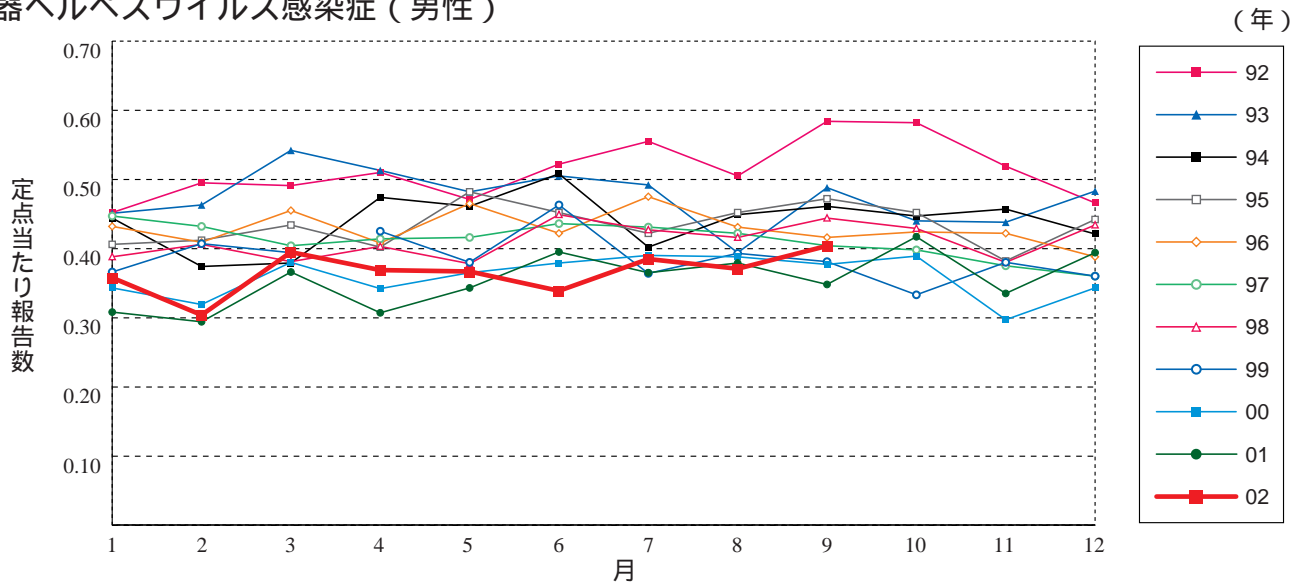
性器クラミジア感染症 (女性)



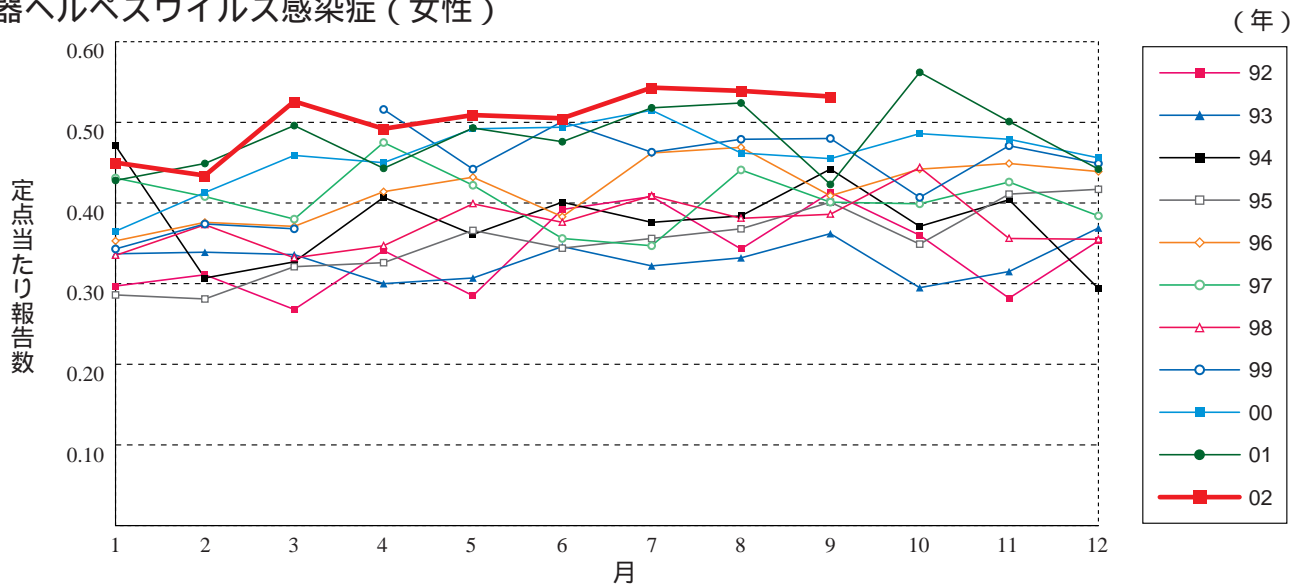
性器ヘルペスウイルス感染症（総数）



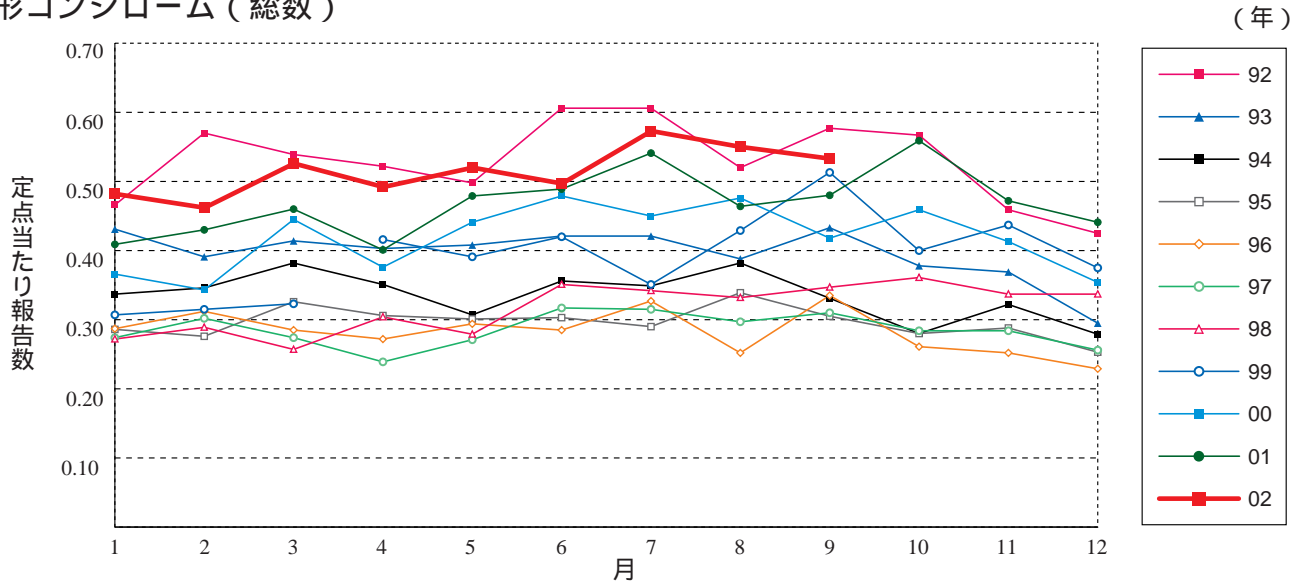
性器ヘルペスウイルス感染症（男性）



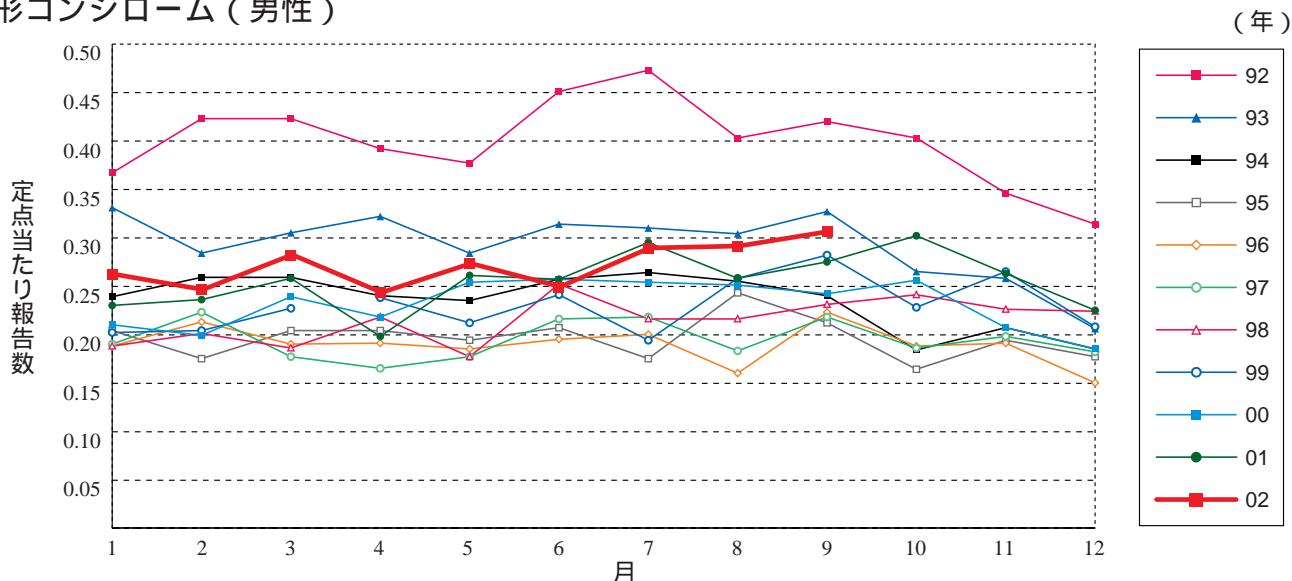
性器ヘルペスウイルス感染症（女性）



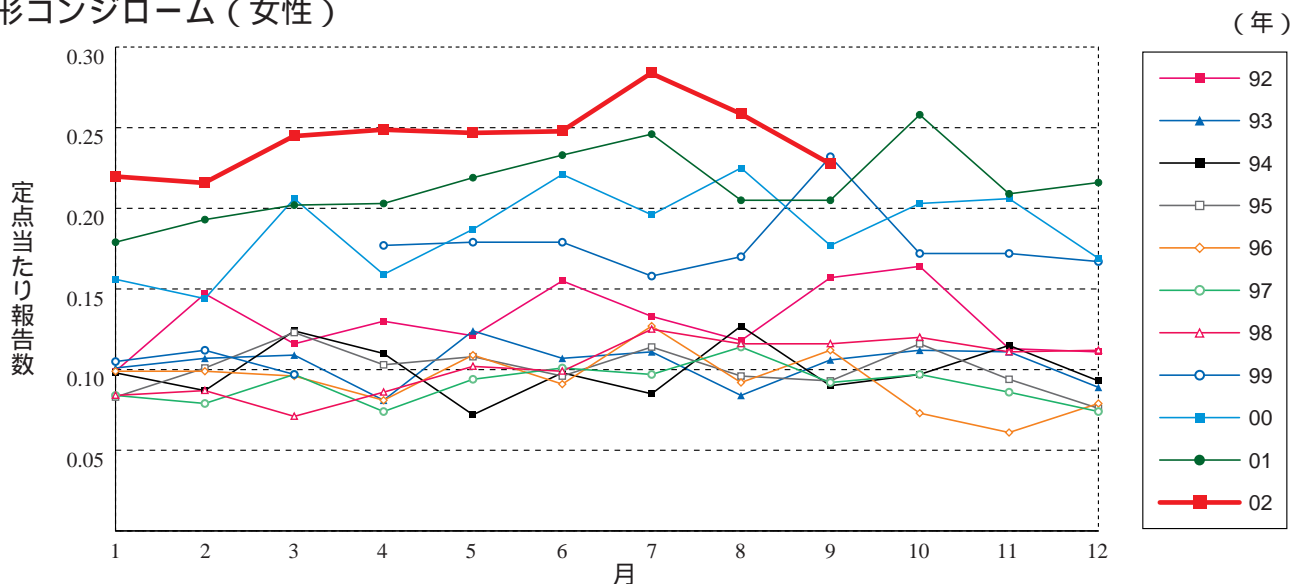
尖形コンジローム (総数)



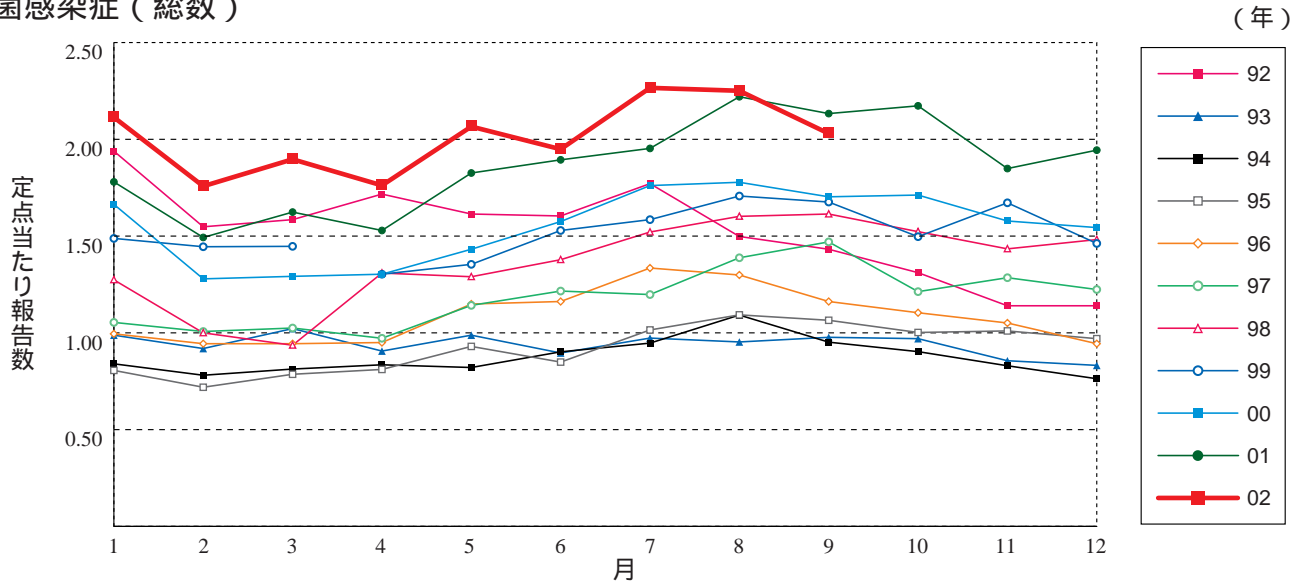
尖形コンジローム (男性)



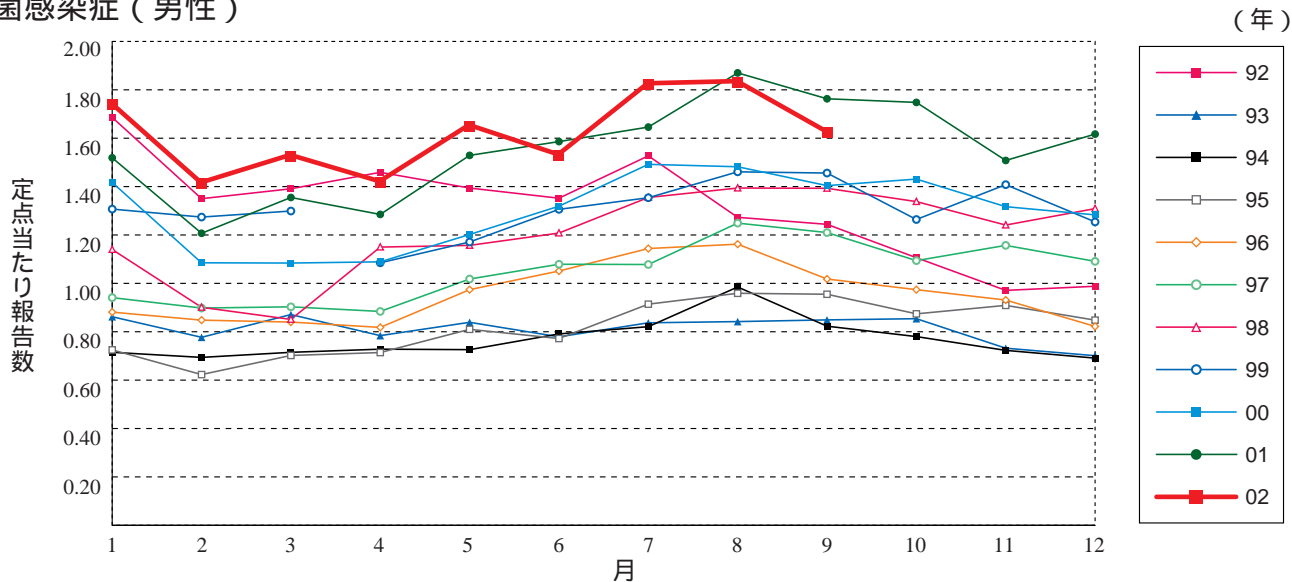
尖形コンジローム (女性)



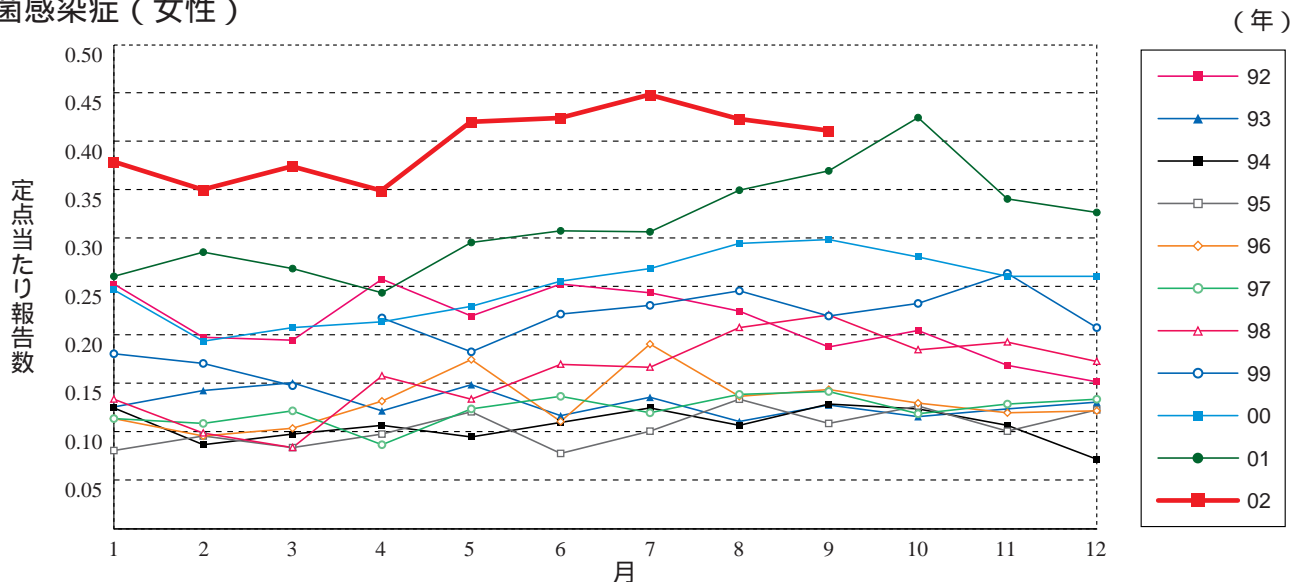
淋菌感染症(総数)



淋菌感染症(男性)

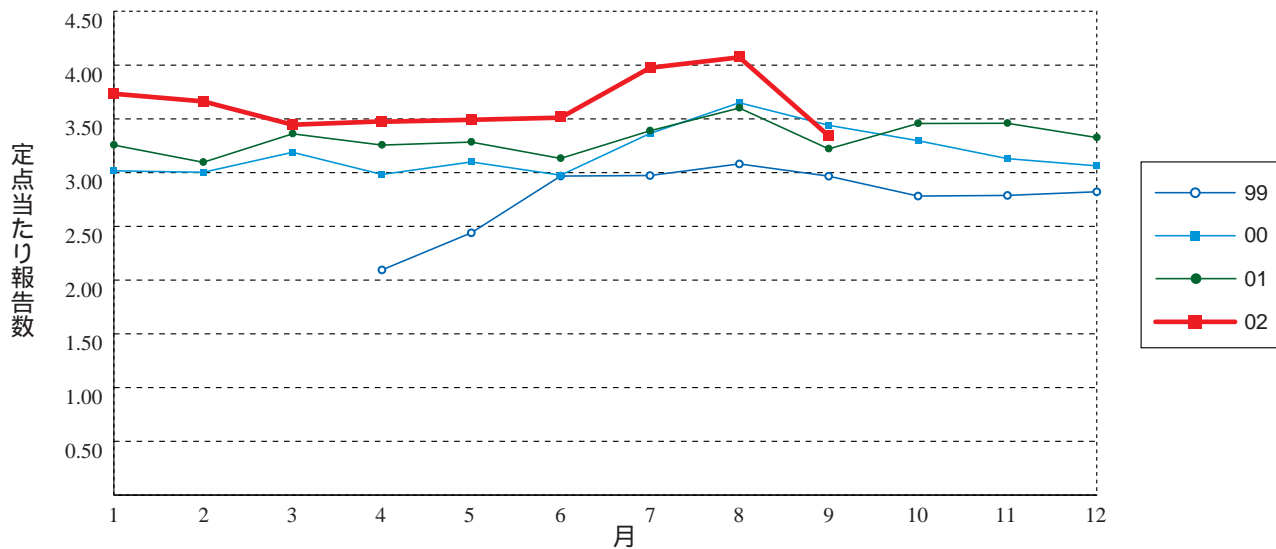


淋菌感染症(女性)



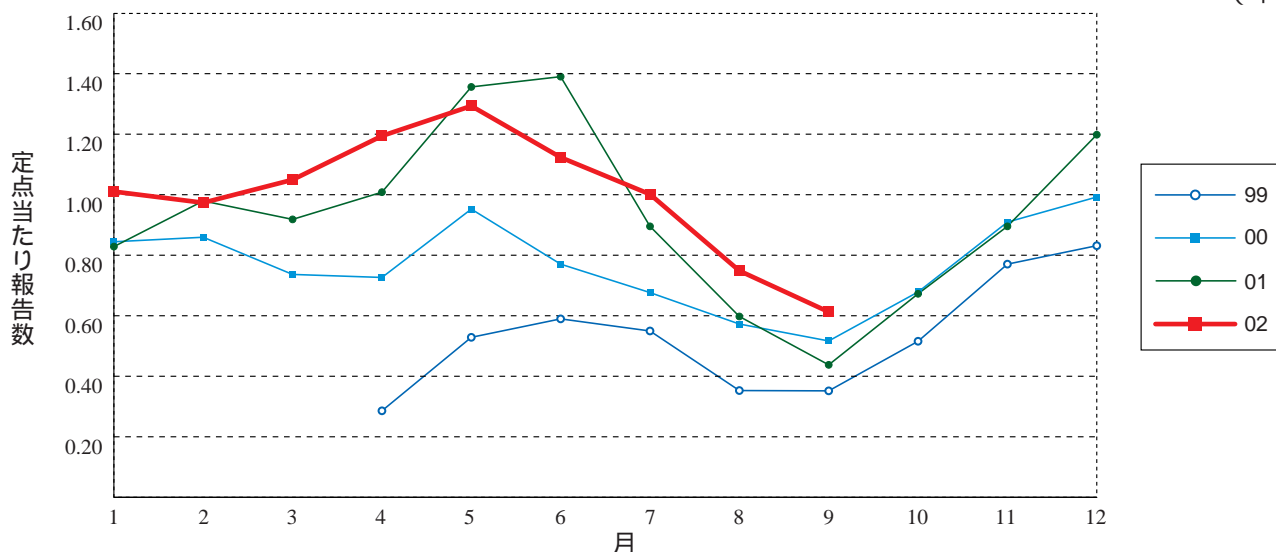
メチシリン耐性黄色ブドウ球菌感染症

(年)



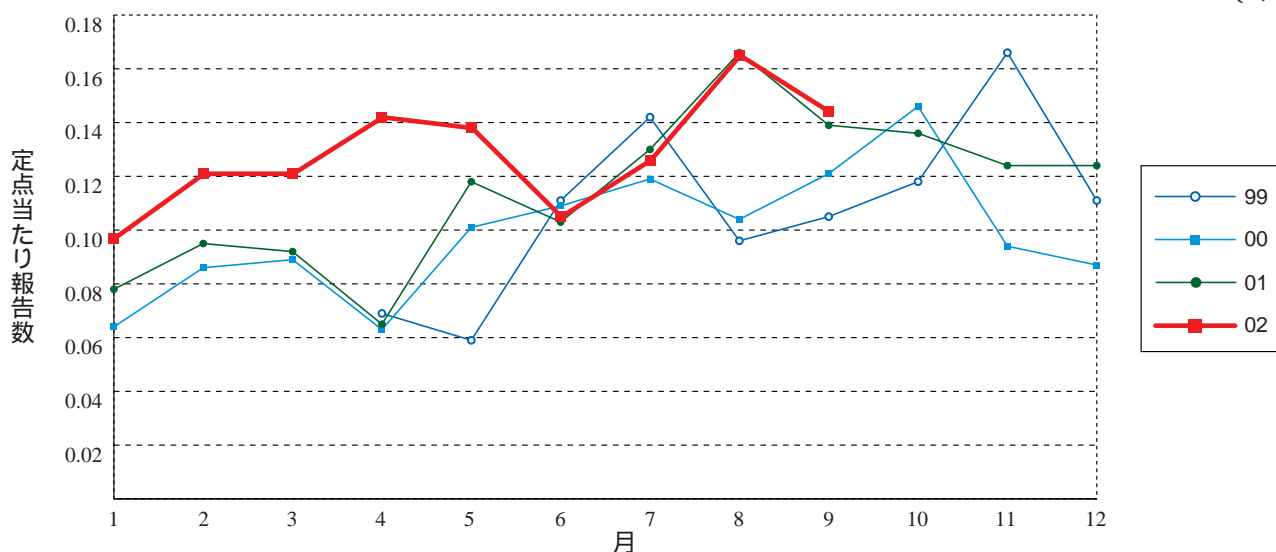
ペニシリン耐性肺炎球菌感染症

(年)



薬剤耐性緑膿菌感染症

(年)





9月のデータ 注)10月10日集計分

第3121表 報告数・定点当り報告数, 疾病・都道府県・性別 (総数)

平成14年9月

	性器クラミジア感染症		性器ヘルペスウイルス感染症		尖形コンジローム		淋菌感染症		メチシリン耐性黄色ブドウ球菌感染症		ペニシリン耐性肺炎球菌感染症		薬剤耐性緑膿菌感染症	
	報告数	定点当り	報告数	定点当り	報告数	定点当り	報告数	定点当り	報告数	定点当り	報告数	定点当り	報告数	定点当り
総数	3747	4.10	853	0.93	487	0.53	1856	2.03	1530	3.35	280	0.61	66	0.14
北海道	298	7.10	53	1.26	21	0.50	141	3.36	22	1.00	5	0.23	3	0.14
青森県	62	5.17	13	1.08	5	0.42	27	2.25	10	1.67	-	-	-	-
岩手県	96	7.38	3	0.23	7	0.54	48	3.69	66	3.30	15	0.75	1	0.05
宮城県	81	4.50	20	1.11	17	0.94	42	2.33	67	5.58	20	1.67	3	0.25
秋田県	29	2.07	2	0.14	5	0.36	8	0.57	18	2.57	3	0.43	1	0.14
山形県	37	3.70	5	0.50	1	0.10	16	1.60	30	3.00	8	0.80	6	0.60
福島県	50	3.13	7	0.44	7	0.44	46	2.88	1	0.14	-	-	-	-
茨城県	94	4.48	23	1.10	14	0.67	51	2.43	12	1.09	-	-	-	-
栃木県	86	5.38	5	0.31	9	0.56	66	4.13	44	6.29	3	0.43	2	0.29
群馬県	179	7.16	21	0.84	11	0.44	39	1.56	16	1.60	3	0.30	2	0.20
埼玉県	219	4.29	30	0.59	15	0.29	81	1.59	20	2.22	2	0.22	1	0.11
千葉県	103	2.58	35	0.88	19	0.48	41	1.02	35	3.89	43	4.78	1	0.11
東京都	241	5.88	71	1.73	52	1.27	111	2.71	135	7.11	27	1.42	16	0.84
神奈川県	170	2.83	37	0.62	10	0.17	68	1.13	22	2.00	9	0.82	-	-
新潟県	51	2.55	4	0.20	16	0.80	43	2.15	36	3.00	8	0.67	-	-
富山県	21	3.00	6	0.86	6	0.86	21	3.00	41	8.20	11	2.20	1	0.20
石川県	19	1.90	6	0.60	1	0.10	19	1.90	7	1.40	-	-	-	-
福井県	15	3.00	4	0.80	1	0.20	3	0.60	18	3.00	7	1.17	-	-
山梨県	20	3.33	-	-	-	-	5	0.83	13	1.30	7	0.70	1	0.10
長野県	67	4.19	13	0.81	10	0.63	17	1.06	34	3.09	1	0.09	-	-
岐阜県	30	2.00	5	0.33	4	0.27	18	1.20	12	2.40	-	-	1	0.20
静岡県	76	2.53	20	0.67	13	0.43	16	0.53	45	4.50	6	0.60	1	0.10
愛知県	197	3.94	55	1.10	29	0.58	149	2.98	59	4.54	1	0.08	-	-
三重県	13	1.00	9	0.69	2	0.15	17	1.31	50	6.25	-	-	-	-
滋賀県	21	2.33	1	0.11	3	0.33	4	0.44	39	6.50	-	-	-	-
京都府	52	2.48	9	0.43	8	0.38	6	0.29	8	1.14	-	-	-	-
大阪府	339	5.75	162	2.75	88	1.49	220	3.73	25	1.79	16	1.14	1	0.07
兵庫県	104	2.26	20	0.43	16	0.35	48	1.04	44	3.14	9	0.64	2	0.14
奈良県	21	2.33	5	0.56	4	0.44	27	3.00	34	5.67	6	1.00	2	0.33
和歌山県	15	1.88	9	1.13	2	0.25	7	0.88	20	1.82	2	0.18	-	-
鳥取県	22	4.40	-	-	3	0.60	10	2.00	21	4.20	2	0.40	-	-
島根県	4	0.67	2	0.33	1	0.17	7	1.17	11	1.38	13	1.63	-	-
岡山県	93	7.15	13	1.00	9	0.69	69	5.31	11	2.75	1	0.25	3	0.75
広島県	57	2.11	20	0.74	11	0.41	27	1.00	98	4.67	22	1.05	7	0.33
山口県	31	3.10	10	1.00	4	0.40	15	1.50	73	12.17	2	0.33	-	-
徳島県	9	1.50	-	-	-	-	1	0.17	12	1.71	-	-	1	0.14
香川県	30	3.33	7	0.78	5	0.56	8	0.89	22	4.40	1	0.20	-	-
愛媛県	42	3.82	3	0.27	1	0.09	15	1.36	8	1.33	1	0.17	1	0.17
高知県	11	1.83	3	0.50	-	-	7	1.17	75	9.38	9	1.13	-	-
福岡県	267	7.22	58	1.57	30	0.81	151	4.08	33	2.06	1	0.06	1	0.06
佐賀県	27	3.86	7	1.00	-	-	21	3.00	23	3.83	-	-	2	0.33
長崎県	31	3.10	22	2.20	7	0.70	10	1.00	5	0.45	-	-	-	-
熊本県	102	7.29	21	1.50	6	0.43	17	1.21	60	4.00	4	0.27	3	0.20
大分県	16	1.60	8	0.80	3	0.30	10	1.00	29	2.90	10	1.00	3	0.30
宮崎県	84	7.64	13	1.18	2	0.18	35	3.18	21	3.00	2	0.29	-	-
鹿児島県	59	3.69	11	0.69	8	0.50	42	2.63	16	1.33	-	-	-	-
沖縄県	56	4.67	2	0.17	1	0.08	6	0.50	29	4.14	-	-	-	-

第3121表 報告数・定点当り報告数, 疾病・都道府県・性別(男)

平成14年9月

	性器クラミジア感染症		性器ヘルペスウイルス感染症		尖形コンジローム		淋菌感染症		メチシリン耐性黄色ブドウ球菌感染症		ペニシリン耐性肺炎球菌感染症		薬剤耐性緑膿菌感染症	
	報告数	定点当り	報告数	定点当り	報告数	定点当り	報告数	定点当り	報告数	定点当り	報告数	定点当り	報告数	定点当り
総数	1585	1.74	368	0.40	279	0.31	1481	1.62	955	2.09	164	0.36	46	0.10
北海道	77	1.83	18	0.43	9	0.21	60	1.43	16	0.73	4	0.18	3	0.14
青森県	21	1.75	8	0.67	2	0.17	21	1.75	9	1.50	-	-	-	-
岩手県	35	2.69	-	-	4	0.31	34	2.62	39	1.95	8	0.40	-	-
宮城県	25	1.39	8	0.44	12	0.67	33	1.83	43	3.58	12	1.00	3	0.25
秋田県	9	0.64	-	-	4	0.29	3	0.21	11	1.57	1	0.14	1	0.14
山形県	18	1.80	1	0.10	1	0.10	6	0.60	19	1.90	4	0.40	3	0.30
福島県	21	1.31	4	0.25	3	0.19	43	2.69	1	0.14	-	-	-	-
茨城県	43	2.05	9	0.43	10	0.48	47	2.24	6	0.55	-	-	-	-
栃木県	56	3.50	4	0.25	4	0.25	60	3.75	27	3.86	1	0.14	1	0.14
群馬県	111	4.44	3	0.12	6	0.24	33	1.32	7	0.70	2	0.20	-	-
埼玉県	78	1.53	8	0.16	11	0.22	67	1.31	10	1.11	-	-	-	-
千葉県	44	1.10	18	0.45	10	0.25	40	1.00	24	2.67	25	2.78	1	0.11
東京都	119	2.90	36	0.88	30	0.73	86	2.10	91	4.79	20	1.05	12	0.63
神奈川県	71	1.18	19	0.32	5	0.08	64	1.07	13	1.18	5	0.45	-	-
新潟県	23	1.15	2	0.10	14	0.70	39	1.95	20	1.67	4	0.33	-	-
富山県	15	2.14	4	0.57	2	0.29	18	2.57	26	5.20	6	1.20	1	0.20
石川県	7	0.70	3	0.30	1	0.10	18	1.80	5	1.00	-	-	-	-
福井県	6	1.20	3	0.60	-	-	3	0.60	14	2.33	3	0.50	-	-
山梨県	6	1.00	-	-	-	-	5	0.83	10	1.00	6	0.60	1	0.10
長野県	23	1.44	3	0.19	5	0.31	15	0.94	22	2.00	-	-	-	-
岐阜県	19	1.27	3	0.20	3	0.20	16	1.07	4	0.80	-	-	1	0.20
静岡県	17	0.57	10	0.33	1	0.03	14	0.47	30	3.00	5	0.50	1	0.10
愛知県	128	2.56	34	0.68	22	0.44	144	2.88	34	2.62	-	-	-	-
三重県	9	0.69	5	0.38	1	0.08	17	1.31	33	4.13	-	-	-	-
滋賀県	9	1.00	1	0.11	1	0.11	4	0.44	17	2.83	-	-	-	-
京都府	13	0.62	2	0.10	8	0.38	3	0.14	6	0.86	-	-	-	-
大阪府	150	2.54	88	1.49	55	0.93	153	2.59	19	1.36	8	0.57	1	0.07
兵庫県	53	1.15	7	0.15	11	0.24	43	0.93	28	2.00	6	0.43	1	0.07
奈良県	13	1.44	3	0.33	4	0.44	27	3.00	22	3.67	4	0.67	1	0.17
和歌山県	12	1.50	1	0.13	2	0.25	7	0.88	16	1.45	1	0.09	-	-
鳥取県	11	2.20	-	-	2	0.40	10	2.00	14	2.80	1	0.20	-	-
島根県	2	0.33	-	-	1	0.17	7	1.17	6	0.75	10	1.25	-	-
岡山県	27	2.08	3	0.23	4	0.31	54	4.15	5	1.25	1	0.25	2	0.50
広島県	26	0.96	10	0.37	1	0.04	25	0.93	62	2.95	11	0.52	6	0.29
山口県	10	1.00	2	0.20	3	0.30	10	1.00	47	7.83	1	0.17	-	-
徳島県	-	-	-	-	-	-	-	-	9	1.29	-	-	-	-
香川県	5	0.56	1	0.11	3	0.33	6	0.67	11	2.20	1	0.20	-	-
愛媛県	8	0.73	2	0.18	-	-	9	0.82	4	0.67	-	-	-	-
高知県	2	0.33	-	-	-	-	5	0.83	37	4.63	4	0.50	-	-
福岡県	126	3.41	22	0.59	12	0.32	121	3.27	19	1.19	-	-	1	0.06
佐賀県	20	2.86	2	0.29	-	-	20	2.86	19	3.17	-	-	2	0.33
長崎県	6	0.60	3	0.30	1	0.10	4	0.40	4	0.36	-	-	-	-
熊本県	20	1.43	9	0.64	4	0.29	9	0.64	35	2.33	2	0.13	2	0.13
大分県	5	0.50	2	0.20	2	0.20	8	0.80	23	2.30	7	0.70	2	0.20
宮崎県	38	3.45	3	0.27	1	0.09	32	2.91	15	2.14	1	0.14	-	-
鹿児島県	45	2.81	4	0.25	4	0.25	36	2.25	10	0.83	-	-	-	-
沖縄県	3	0.25	-	-	-	-	2	0.17	13	1.86	-	-	-	-

第3121表 報告数・定点当り報告数, 疾病・都道府県・性別(女)

平成14年9月

	性器クラミジア感染症		性器ヘルペスウイルス感染症		尖形コンジローム		淋菌感染症		メチシリン耐性黄色ブドウ球菌感染症		ペニシリン耐性肺炎球菌感染症		薬剤耐性緑膿菌感染症	
	報告数	定点当り	報告数	定点当り	報告数	定点当り	報告数	定点当り	報告数	定点当り	報告数	定点当り	報告数	定点当り
総数	2162	2.37	485	0.53	208	0.23	375	0.41	575	1.26	116	0.25	20	0.04
北海道	221	5.26	35	0.83	12	0.29	81	1.93	6	0.27	1	0.05	-	-
青森県	41	3.42	5	0.42	3	0.25	6	0.50	1	0.17	-	-	-	-
岩手県	61	4.69	3	0.23	3	0.23	14	1.08	27	1.35	7	0.35	1	0.05
宮城県	56	3.11	12	0.67	5	0.28	9	0.50	24	2.00	8	0.67	-	-
秋田県	20	1.43	2	0.14	1	0.07	5	0.36	7	1.00	2	0.29	-	-
山形県	19	1.90	4	0.40	-	-	10	1.00	11	1.10	4	0.40	3	0.30
福島県	29	1.81	3	0.19	4	0.25	3	0.19	-	-	-	-	-	-
茨城県	51	2.43	14	0.67	4	0.19	4	0.19	6	0.55	-	-	-	-
栃木県	30	1.88	1	0.06	5	0.31	6	0.38	17	2.43	2	0.29	1	0.14
群馬県	68	2.72	18	0.72	5	0.20	6	0.24	9	0.90	1	0.10	2	0.20
埼玉県	141	2.76	22	0.43	4	0.08	14	0.27	10	1.11	2	0.22	1	0.11
千葉県	59	1.48	17	0.43	9	0.23	1	0.03	11	1.22	18	2.00	-	-
東京都	122	2.98	35	0.85	22	0.54	25	0.61	44	2.32	7	0.37	4	0.21
神奈川県	99	1.65	18	0.30	5	0.08	4	0.07	9	0.82	4	0.36	-	-
新潟県	28	1.40	2	0.10	2	0.10	4	0.20	16	1.33	4	0.33	-	-
富山県	6	0.86	2	0.29	4	0.57	3	0.43	15	3.00	5	1.00	-	-
石川県	12	1.20	3	0.30	-	-	1	0.10	2	0.40	-	-	-	-
福井県	9	1.80	1	0.20	1	0.20	-	-	4	0.67	4	0.67	-	-
山梨県	14	2.33	-	-	-	-	-	-	3	0.30	1	0.10	-	-
長野県	44	2.75	10	0.63	5	0.31	2	0.13	12	1.09	1	0.09	-	-
岐阜県	11	0.73	2	0.13	1	0.07	2	0.13	8	1.60	-	-	-	-
静岡県	59	1.97	10	0.33	12	0.40	2	0.07	15	1.50	1	0.10	-	-
愛知県	69	1.38	21	0.42	7	0.14	5	0.10	25	1.92	1	0.08	-	-
三重県	4	0.31	4	0.31	1	0.08	-	-	17	2.13	-	-	-	-
滋賀県	12	1.33	-	-	2	0.22	-	-	22	3.67	-	-	-	-
京都府	39	1.86	7	0.33	-	-	3	0.14	2	0.29	-	-	-	-
大阪府	189	3.20	74	1.25	33	0.56	67	1.14	6	0.43	8	0.57	-	-
兵庫県	51	1.11	13	0.28	5	0.11	5	0.11	16	1.14	3	0.21	1	0.07
奈良県	8	0.89	2	0.22	-	-	-	-	12	2.00	2	0.33	1	0.17
和歌山県	3	0.38	8	1.00	-	-	-	-	4	0.36	1	0.09	-	-
鳥取県	11	2.20	-	-	1	0.20	-	-	7	1.40	1	0.20	-	-
島根県	2	0.33	2	0.33	-	-	-	-	5	0.63	3	0.38	-	-
岡山県	66	5.08	10	0.77	5	0.38	15	1.15	6	1.50	-	-	1	0.25
広島県	31	1.15	10	0.37	10	0.37	2	0.07	36	1.71	11	0.52	1	0.05
山口県	21	2.10	8	0.80	1	0.10	5	0.50	26	4.33	1	0.17	-	-
徳島県	9	1.50	-	-	-	-	1	0.17	3	0.43	-	-	1	0.14
香川県	25	2.78	6	0.67	2	0.22	2	0.22	11	2.20	-	-	-	-
愛媛県	34	3.09	1	0.09	1	0.09	6	0.55	4	0.67	1	0.17	1	0.17
高知県	9	1.50	3	0.50	-	-	2	0.33	38	4.75	5	0.63	-	-
福岡県	141	3.81	36	0.97	18	0.49	30	0.81	14	0.88	1	0.06	-	-
佐賀県	7	1.00	5	0.71	-	-	1	0.14	4	0.67	-	-	-	-
長崎県	25	2.50	19	1.90	6	0.60	6	0.60	1	0.09	-	-	-	-
熊本県	82	5.86	12	0.86	2	0.14	8	0.57	25	1.67	2	0.13	1	0.07
大分県	11	1.10	6	0.60	1	0.10	2	0.20	6	0.60	3	0.30	1	0.10
宮崎県	46	4.18	10	0.91	1	0.09	3	0.27	6	0.86	1	0.14	-	-
鹿児島県	14	0.88	7	0.44	4	0.25	6	0.38	6	0.50	-	-	-	-
沖縄県	53	4.42	2	0.17	1	0.08	4	0.33	16	2.29	-	-	-	-

注)10月23日集計分

第1104表 新登録患者数・都道府県別

平成14年9月

	結核
	報告数
総数	2525
北海道	75
青森県	30
岩手県	18
宮城県	28
秋田県	16
山形県	15
福島県	34
茨城県	45
栃木県	47
群馬県	23
埼玉県	101
千葉県	122
東京都	303
神奈川県	156
新潟県	44
富山県	23
石川県	17
福井県	12
山梨県	14
長野県	16
岐阜県	53
静岡県	65
愛知県	159
三重県	32
滋賀県	26
京都府	67
大阪府	313
兵庫県	132
奈良県	19
和歌山県	29
鳥取県	6
島根県	12
岡山県	27
広島県	33
山口県	36
徳島県	15
香川県	17
愛媛県	30
高知県	13
福岡県	107
佐賀県	13
長崎県	36
熊本県	25
大分県	27
宮崎県	33
鹿児島県	33
沖縄県	28



4 2週 の データ

注)表中の報告数は10月24日集計分であり、その後の報告数は次週以降の累計に反映されます。

第3101表 報告数・累積報告数，疾病・都道府県別

平成14年42週

	エボラ出血熱		クリミア・コンゴ出血熱		ペスト		マールブルグ病		ラッサ熱		コレラ		細菌性赤痢		腸チフス		バラチフス		
	報告数	累積	報告数	累積	報告数	累積	報告数	累積	報告数	累積	報告数	累積	報告数	累積	報告数	累積	報告数	累積	
総 数	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	44	12	588	2	55	1	28		
北海道	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1	-	10	-	2	-	-		
青森県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	2	-	1	-	-	-	-		
岩手県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1	-	-		
宮城県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1	-	18	-	-	-	1		
秋田県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	2	-	1	-	-		
山形県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1	32	-	1	-	-		
福島県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	8	-	-	-	-		
茨城県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1	5	-	-	-	-		
栃木県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1	-	-	-	-		
群馬県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	3	-	-	-	-		
埼玉県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	2	1	26	-	2	-	1		
千葉県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	9	-	77	-	2	-	1		
東京都	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	14	2	86	1	22	-	10		
神奈川県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1	2	33	-	4	-	1		
新潟県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	7	-	1	-	-		
富山県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	2	-	-	-	-		
石川県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1	-	-	-	-		
福井県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	27	-	-	-	-		
山梨県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	2	-	-	-	-		
長野県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	3	-	8	-	1	-	-		
岐阜県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	26	-	-	-	1		
静岡県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1	-	35	-	-	-	1		
愛知県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	2	-	16	1	1	-	2		
三重県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1	1	9	-	1	-	1		
滋賀県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	5	-	-	-	1		
京都府	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1	15	-	-	1	3		
大阪府	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1	2	40	-	6	-	3		
兵庫県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1	1	12	-	4	-	1		
奈良県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1	-	3	-	-	-	-		
和歌山県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1	-	1	-	-	-	-		
鳥取県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-		
島根県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	2	-	-	-	-		
岡山県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	2	-	5	-	-	-	-		
広島県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	6	-	1	-	1		
山口県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	3	-	1	-	-		
徳島県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1	-	-	-	-		
香川県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-		
愛媛県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-		
高知県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-		
福岡県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	17	-	4	-	-		
佐賀県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	9	-	-	-	-		
長崎県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	2	-	-	-	-		
熊本県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	29	-	-	-	-		
大分県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1	-	2	-	-	-	-		
宮崎県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-		
鹿児島県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1	-	-	-	-		
沖縄県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-		

第3101表 報告数・累積報告数，疾病・都道府県別

平成14年42週

	急性灰白髄炎		ジフテリア		腸管出血性大腸菌感染症		アメーバ赤痢		エキノコックス症		黄熱		オウム病		回歸熱		ウイルス性肝炎	
	報告数	累積	報告数	累積	報告数	累積	報告数	累積	報告数	累積	報告数	累積	報告数	累積	報告数	累積	報告数	累積
総数	-	-	-	-	42	2892	2	368	1	8	-	-	-	51	-	-	5	792
北海道	-	-	-	-	3	111	-	16	1	7	-	-	-	3	-	-	-	14
青森県	-	-	-	-	-	24	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	3
岩手県	-	-	-	-	-	89	-	2	-	-	-	-	-	-	-	-	-	10
宮城県	-	-	-	-	3	62	-	7	-	-	-	-	-	-	-	-	-	34
秋田県	-	-	-	-	1	51	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	9
山形県	-	-	-	-	1	39	-	2	-	-	-	-	-	-	-	-	-	13
福島県	-	-	-	-	-	18	-	2	-	-	-	-	-	-	-	-	-	7
茨城県	-	-	-	-	-	16	-	5	-	-	-	-	-	-	-	-	-	14
栃木県	-	-	-	-	2	174	-	2	-	-	-	-	-	-	-	-	-	8
群馬県	-	-	-	-	3	38	-	3	-	-	-	-	-	-	-	-	-	12
埼玉県	-	-	-	-	4	66	-	10	-	-	-	-	-	-	-	-	-	30
千葉県	-	-	-	-	-	129	-	19	-	-	-	-	-	-	-	-	1	43
東京都	-	-	-	-	-	165	1	101	-	-	-	-	-	3	-	-	-	140
神奈川県	-	-	-	-	-	83	-	30	-	-	-	-	-	-	-	-	-	37
新潟県	-	-	-	-	-	18	-	1	-	-	-	-	-	-	-	-	-	2
富山県	-	-	-	-	-	27	-	1	-	-	-	-	-	-	-	-	-	7
石川県	-	-	-	-	-	106	-	2	-	-	-	-	-	-	-	-	-	7
福井県	-	-	-	-	-	30	-	1	-	-	-	-	-	-	-	-	-	2
山梨県	-	-	-	-	-	6	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	3
長野県	-	-	-	-	-	85	-	3	-	-	-	-	-	2	-	-	-	11
岐阜県	-	-	-	-	1	19	-	11	-	-	-	-	-	3	-	-	-	18
静岡県	-	-	-	-	-	42	-	6	-	-	-	-	-	2	-	-	-	20
愛知県	-	-	-	-	10	103	-	17	-	-	-	-	-	1	-	-	-	45
三重県	-	-	-	-	-	10	-	3	-	-	-	-	-	1	-	-	-	1
滋賀県	-	-	-	-	1	13	-	6	-	1	-	-	-	-	-	-	-	2
京都府	-	-	-	-	1	51	1	11	-	-	-	-	-	2	-	-	-	21
大阪府	-	-	-	-	1	200	-	48	-	-	-	-	-	5	-	-	1	59
兵庫県	-	-	-	-	3	177	-	17	-	-	-	-	-	3	-	-	-	44
奈良県	-	-	-	-	-	25	-	7	-	-	-	-	-	-	-	-	-	13
和歌山県	-	-	-	-	-	20	-	1	-	-	-	-	-	1	-	-	-	6
鳥取県	-	-	-	-	-	12	-	-	-	-	-	-	-	1	-	-	-	3
島根県	-	-	-	-	-	28	-	-	-	-	-	-	-	11	-	-	-	2
岡山県	-	-	-	-	1	80	-	7	-	-	-	-	-	1	-	-	-	16
広島県	-	-	-	-	3	44	-	3	-	-	-	-	-	8	-	-	2	25
山口県	-	-	-	-	-	27	-	1	-	-	-	-	-	1	-	-	-	18
徳島県	-	-	-	-	-	17	-	1	-	-	-	-	-	-	-	-	-	6
香川県	-	-	-	-	-	17	-	2	-	-	-	-	-	-	-	-	-	5
愛媛県	-	-	-	-	1	16	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	9
高知県	-	-	-	-	-	15	-	2	-	-	-	-	-	-	-	-	-	5
福岡県	-	-	-	-	-	242	-	6	-	-	-	-	-	2	-	-	-	28
佐賀県	-	-	-	-	-	166	-	1	-	-	-	-	-	-	-	-	-	3
長崎県	-	-	-	-	1	36	-	1	-	-	-	-	-	-	-	-	-	2
熊本県	-	-	-	-	-	55	-	3	-	-	-	-	-	-	-	-	-	8
大分県	-	-	-	-	1	34	-	2	-	-	-	-	-	-	-	-	-	6
宮崎県	-	-	-	-	1	37	-	2	-	-	-	-	-	1	-	-	1	12
鹿児島県	-	-	-	-	-	31	-	1	-	-	-	-	-	-	-	-	-	8
沖縄県	-	-	-	-	-	38	-	2	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1

第3101表 報告数・累積報告数, 疾病・都道府県別

平成14年42週

	Q 熱		狂 犬 病		クリプト スポリジウム症		クロイツフェルト ・ヤコブ病		劇症型溶血性 レンサ球菌感染症		後天性 免疫不全症候群		コクシジ オイデス症		ジアルジア症		腎症候性出血熱	
	報告数	累積	報告数	累積	報告数	累積	報告数	累積	報告数	累積	報告数	累積	報告数	累積	報告数	累積	報告数	累積
総 数	-	36	-	-	-	107	1	104	1	74	3	731	-	3	1	97	-	-
北海道	-	1	-	-	-	35	-	3	-	4	-	11	-	-	-	2	-	-
青森県	-	-	-	-	-	-	-	1	-	-	-	1	-	-	-	-	-	-
岩手県	-	-	-	-	-	-	-	3	-	-	-	3	-	-	-	-	-	-
宮城県	-	-	-	-	-	-	-	2	-	1	-	6	-	-	-	-	-	-
秋田県	-	-	-	-	-	-	-	2	-	-	-	3	-	-	-	-	-	-
山形県	-	1	-	-	-	-	-	2	-	2	-	1	-	-	-	-	-	-
福島県	-	-	-	-	-	-	-	5	-	-	-	2	-	-	-	1	-	-
茨城県	-	-	-	-	-	1	-	3	-	-	1	27	-	-	-	2	-	-
栃木県	-	-	-	-	-	-	-	4	-	-	-	13	-	-	-	-	-	-
群馬県	-	-	-	-	-	-	-	1	-	4	-	16	-	-	-	1	-	-
埼玉県	-	1	-	-	-	-	-	2	-	3	-	25	-	-	-	1	-	-
千葉県	-	-	-	-	-	5	-	2	1	7	-	35	-	1	-	4	-	-
東京都	-	27	-	-	-	3	-	8	-	8	1	292	-	-	-	40	-	-
神奈川県	-	-	-	-	-	-	-	10	-	2	1	50	-	-	1	9	-	-
新潟県	-	-	-	-	-	-	-	1	-	2	-	1	-	-	-	-	-	-
富山県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1	-	3	-	-	-	-	-	-
石川県	-	-	-	-	-	-	-	1	-	1	-	2	-	1	-	-	-	-
福井県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	2	-	3	-	-	-	1	-	-
山梨県	-	-	-	-	-	-	-	1	-	1	-	9	-	-	-	3	-	-
長野県	-	-	-	-	-	-	-	1	-	1	-	21	-	-	-	-	-	-
岐阜県	-	1	-	-	-	-	-	3	-	1	-	5	-	-	-	-	-	-
静岡県	-	1	-	-	-	-	-	1	-	3	-	16	-	-	-	1	-	-
愛知県	-	1	-	-	-	-	1	7	-	6	-	41	-	-	-	3	-	-
三重県	-	-	-	-	-	-	-	1	-	-	-	4	-	-	-	-	-	-
滋賀県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1	-	3	-	-	-	-	-	-
京都府	-	-	-	-	-	-	-	3	-	3	-	7	-	-	-	8	-	-
大阪府	-	-	-	-	-	2	-	6	-	-	-	72	-	1	-	8	-	-
兵庫県	-	1	-	-	-	61	-	4	-	5	-	14	-	-	-	2	-	-
奈良県	-	-	-	-	-	-	-	6	-	-	-	1	-	-	-	-	-	-
和歌山県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	3	-	3	-	-	-	-	-	-
鳥取県	-	-	-	-	-	-	-	1	-	-	-	1	-	-	-	-	-	-
島根県	-	-	-	-	-	-	-	2	-	1	-	-	-	-	-	1	-	-
岡山県	-	1	-	-	-	-	-	2	-	1	-	4	-	-	-	3	-	-
広島県	-	-	-	-	-	-	-	4	-	-	-	5	-	-	-	4	-	-
山口県	-	-	-	-	-	-	-	1	-	1	-	1	-	-	-	-	-	-
徳島県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1	-	-	-	1	-	-
香川県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	3	-	-	-	-	-	-
愛媛県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	2	-	4	-	-	-	-	-	-
高知県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1	-	-	-	-	-	1	-	-
福岡県	-	1	-	-	-	-	-	7	-	2	-	7	-	-	-	1	-	-
佐賀県	-	-	-	-	-	-	-	1	-	1	-	1	-	-	-	-	-	-
長崎県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	2	-	1	-	-	-	-	-	-
熊本県	-	-	-	-	-	-	-	1	-	1	-	1	-	-	-	-	-	-
大分県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	2	-	-	-	-	-	-
宮崎県	-	-	-	-	-	-	-	1	-	-	-	3	-	-	-	-	-	-
鹿児島県	-	-	-	-	-	-	-	1	-	-	-	1	-	-	-	-	-	-
沖縄県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1	-	6	-	-	-	-	-	-

第3101表 報告数・累積報告数，疾病・都道府県別

平成14年42週

	髄膜炎菌性髄膜炎		先天性風疹症候群		炭疽		ツツガムシ病		デング熱		日本紅斑熱		日本脳炎		乳児ポツリヌス症		梅毒	
	報告数	累積	報告数	累積	報告数	累積	報告数	累積	報告数	累積	報告数	累積	報告数	累積	報告数	累積	報告数	累積
総数	-	5	-	-	-	-	-	127	-	46	2	25	1	6	-	-	7	455
北海道	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1	-	-	-	-	-	-	1	19
青森県	-	-	-	-	-	-	-	6	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1
岩手県	-	-	-	-	-	-	-	6	-	-	-	-	-	-	-	-	-	4
宮城県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	3	-	-	-	-	-	-	-	2
秋田県	-	-	-	-	-	-	-	13	-	-	-	-	-	-	-	-	-	7
山形県	-	-	-	-	-	-	-	10	-	1	-	-	-	-	-	-	-	5
福島県	-	-	-	-	-	-	-	15	-	-	-	-	-	-	-	-	-	6
茨城県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1
栃木県	-	-	-	-	-	-	-	1	-	-	-	-	-	-	-	-	-	3
群馬県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1	-	-	-	-	-	-	-	4
埼玉県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	2	-	-	-	-	-	-	-	10
千葉県	-	1	-	-	-	-	-	4	-	1	-	-	-	-	-	-	-	1
東京都	-	1	-	-	-	-	-	4	-	14	-	-	-	-	-	-	-	48
神奈川県	-	1	-	-	-	-	-	-	-	9	-	-	-	-	-	-	-	18
新潟県	-	-	-	-	-	-	-	12	-	-	-	-	-	-	-	-	-	4
富山県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1	-	-	-	-	-	-	-	3
石川県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1	-	-	-	-	-	-	-	3
福井県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1	-	-	-	-	-	-	-	-
山梨県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1
長野県	-	-	-	-	-	-	-	5	-	-	-	-	-	-	-	-	-	4
岐阜県	-	-	-	-	-	-	-	1	-	-	-	-	-	-	-	-	-	9
静岡県	-	1	-	-	-	-	-	-	-	1	-	-	-	-	-	-	-	10
愛知県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1	-	-	-	-	-	-	-	1
三重県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	5
滋賀県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	4
京都府	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	13
大阪府	-	-	-	-	-	-	-	-	-	6	-	1	-	-	-	-	-	2
兵庫県	-	-	-	-	-	-	-	2	-	1	-	3	-	-	-	-	-	24
奈良県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	3
和歌山県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	2	-	-	-	-	-	-
鳥取県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1	-	-	-	-	2
島根県	-	-	-	-	-	-	-	4	-	-	2	6	1	1	-	-	-	4
岡山県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1	-	-	-	-	10
広島県	-	-	-	-	-	-	-	9	-	-	-	-	3	-	-	-	-	9
山口県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	10
徳島県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1	-	1	-	-	-	-	-	2
香川県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1	-	-	-	-	-	-	-	14
愛媛県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	6
高知県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	5	-	-	-	-	-	3
福岡県	-	-	-	-	-	-	-	1	-	-	-	-	-	-	-	-	-	15
佐賀県	-	-	-	-	-	-	-	2	-	-	-	-	-	-	-	-	-	3
長崎県	-	-	-	-	-	-	-	2	-	-	-	-	-	-	-	-	-	3
熊本県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1
大分県	-	-	-	-	-	-	-	5	-	-	-	-	-	-	-	-	-	6
宮崎県	-	-	-	-	-	-	-	5	-	-	-	2	-	-	-	-	-	3
鹿児島県	-	-	-	-	-	-	-	20	-	-	-	5	-	-	-	-	-	6
沖縄県	-	1	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	6

第3101表 報告数・累積報告数，疾病・都道府県別

平成14年42週

	破傷風		バンコマイシン耐性腸球菌感染症		ハンタウイルス肺症候群		Bウイルス病		ブルセラ症		発疹チフス		マラリア		ライム病		レジオネラ症	
	報告数	累積	報告数	累積	報告数	累積	報告数	累積	報告数	累積	報告数	累積	報告数	累積	報告数	累積	報告数	累積
総数	-	84	1	35	-	-	-	-	-	1	-	-	-	65	-	14	2	142
北海道	-	5	-	1	-	-	-	-	-	-	-	-	-	2	-	7	-	-
青森県	-	2	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1	-	1	-	1
岩手県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
宮城県	-	1	-	1	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	3
秋田県	-	-	-	3	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1
山形県	-	-	-	1	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1	-	-	-	4
福島県	-	7	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1	-	4
茨城県	-	2	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	2	-	-	-	2
栃木県	-	5	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	3
群馬県	-	2	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
埼玉県	-	2	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	2	-	-	-	6
千葉県	-	2	-	1	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1	-	-	-	2
東京都	-	6	-	7	-	-	-	-	1	-	-	-	23	-	1	-	-	13
神奈川県	-	3	-	2	-	-	-	-	-	-	-	-	5	-	2	-	-	-
新潟県	-	1	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	2	-	1	-	-	3
富山県	-	1	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1
石川県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
福井県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
山梨県	-	-	-	1	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
長野県	-	2	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	2
岐阜県	-	1	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	2
静岡県	-	2	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1	-	-	-	1	8
愛知県	-	2	-	1	-	-	-	-	-	-	-	-	4	-	-	-	-	4
三重県	-	1	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
滋賀県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1	1
京都府	-	1	-	1	-	-	-	-	-	-	-	-	5	-	-	-	-	2
大阪府	-	1	1	3	-	-	-	-	-	-	-	-	10	-	-	-	-	9
兵庫県	-	4	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	2	-	-	-	-	4
奈良県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
和歌山県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1	-	-	-	-	-
鳥取県	-	1	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
島根県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1
岡山県	-	-	-	2	-	-	-	-	-	-	-	-	1	-	-	-	-	3
広島県	-	4	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	2
山口県	-	4	-	1	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1
徳島県	-	1	-	1	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
香川県	-	2	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
愛媛県	-	3	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1	-	-	-	-	-
高知県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1
福岡県	-	3	-	8	-	-	-	-	-	-	-	-	1	-	-	-	-	3
佐賀県	-	2	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
長崎県	-	2	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	2
熊本県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	3
大分県	-	1	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1
宮崎県	-	3	-	1	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	37
鹿児島県	-	4	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1	-	-	10
沖縄県	-	1	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	3

第3102表 報告数・定点当り報告数, 疾病・都道府県別

平成14年42週

	インフルエンザ		咽頭結膜熱		A群溶血性 レンサ球菌咽頭炎		感染性胃腸炎		水痘		手足口病		伝染性紅斑		突発性発疹		百日咳	
	報告数	定点当り	報告数	定点当り	報告数	定点当り	報告数	定点当り	報告数	定点当り	報告数	定点当り	報告数	定点当り	報告数	定点当り	報告数	定点当り
総数	57	0.01	193	0.06	1753	0.58	9122	3.00	2112	0.69	1781	0.59	466	0.15	2168	0.71	34	0.01
北海道	-	-	13	0.09	134	0.92	201	1.39	114	0.79	173	1.19	48	0.33	105	0.72	9	0.06
青森県	1	0.02	-	-	8	0.19	35	0.83	56	1.33	53	1.26	3	0.07	31	0.74	-	-
岩手県	1	0.02	-	-	7	0.18	38	1.00	31	0.82	27	0.71	7	0.18	15	0.39	-	-
宮城県	3	0.03	3	0.05	37	0.63	146	2.47	43	0.73	86	1.46	27	0.46	50	0.85	2	0.03
秋田県	-	-	4	0.11	36	1.03	62	1.77	26	0.74	6	0.17	4	0.11	19	0.54	-	-
山形県	-	-	-	-	25	0.83	34	1.13	32	1.07	44	1.47	5	0.17	28	0.93	-	-
福島県	-	-	-	-	18	0.39	141	3.07	38	0.83	76	1.65	12	0.26	29	0.63	-	-
茨城県	2	0.02	-	-	16	0.22	96	1.30	28	0.38	82	1.11	18	0.24	18	0.24	-	-
栃木県	-	-	1	0.02	17	0.37	68	1.48	30	0.65	32	0.70	8	0.17	35	0.76	-	-
群馬県	-	-	9	0.15	38	0.61	105	1.69	60	0.97	12	0.19	12	0.19	42	0.68	-	-
埼玉県	3	0.01	6	0.04	110	0.69	421	2.63	117	0.73	76	0.48	10	0.06	110	0.69	-	-
千葉県	-	-	2	0.02	106	0.80	267	2.01	86	0.65	30	0.23	17	0.13	101	0.76	-	-
東京都	-	-	14	0.10	64	0.45	319	2.25	70	0.49	41	0.29	16	0.11	75	0.53	-	-
神奈川県	1	0.00	4	0.02	92	0.45	448	2.17	105	0.51	75	0.36	21	0.10	171	0.83	3	0.01
新潟県	-	-	2	0.03	42	0.70	349	5.82	52	0.87	61	1.02	32	0.53	53	0.88	3	0.05
富山県	-	-	-	-	28	0.97	120	4.14	28	0.97	39	1.34	8	0.28	25	0.86	-	-
石川県	1	0.02	-	-	14	0.48	122	4.21	22	0.76	10	0.34	1	0.03	18	0.62	-	-
福井県	-	-	7	0.32	14	0.64	138	6.27	38	1.73	3	0.14	8	0.36	26	1.18	1	0.05
山梨県	17	0.41	-	-	12	0.48	39	1.56	7	0.28	2	0.08	-	-	8	0.32	-	-
長野県	-	-	7	0.13	61	1.15	170	3.21	29	0.55	26	0.49	18	0.34	26	0.49	1	0.02
岐阜県	-	-	9	0.19	17	0.36	53	1.13	57	1.21	96	2.04	7	0.15	27	0.57	1	0.02
静岡県	-	-	6	0.07	42	0.49	219	2.55	82	0.95	35	0.41	10	0.12	77	0.90	1	0.01
愛知県	4	0.02	7	0.04	77	0.42	303	1.66	85	0.47	101	0.55	37	0.20	107	0.59	1	0.01
三重県	-	-	1	0.02	20	0.44	147	3.27	62	1.38	16	0.36	13	0.29	52	1.16	-	-
滋賀県	-	-	6	0.19	7	0.22	26	0.81	27	0.84	25	0.78	5	0.16	12	0.38	-	-
京都府	2	0.02	1	0.01	17	0.22	222	2.92	44	0.58	27	0.36	7	0.09	31	0.41	1	0.01
大阪府	2	0.01	17	0.09	113	0.58	545	2.79	128	0.66	80	0.41	6	0.03	119	0.61	3	0.02
兵庫県	3	0.02	-	-	50	0.39	384	3.00	72	0.56	41	0.32	14	0.11	94	0.73	-	-
奈良県	-	-	-	-	13	0.37	79	2.26	24	0.69	45	1.29	2	0.06	27	0.77	-	-
和歌山県	-	-	-	-	8	0.26	30	0.97	16	0.52	5	0.16	6	0.19	19	0.61	-	-
鳥取県	-	-	-	-	12	0.63	83	4.37	6	0.32	19	1.00	10	0.53	18	0.95	-	-
島根県	1	0.03	-	-	3	0.13	38	1.65	14	0.61	4	0.17	4	0.17	12	0.52	-	-
岡山県	-	-	1	0.02	24	0.44	81	1.50	38	0.70	20	0.37	9	0.17	25	0.46	1	0.02
広島県	2	0.02	12	0.16	39	0.52	193	2.57	50	0.67	60	0.80	6	0.08	57	0.76	1	0.01
山口県	-	-	3	0.06	60	1.22	425	8.67	38	0.78	6	0.12	5	0.10	52	1.06	-	-
徳島県	-	-	1	0.04	7	0.30	45	1.96	23	1.00	15	0.65	9	0.39	17	0.74	1	0.04
香川県	-	-	-	-	22	0.69	74	2.31	12	0.38	8	0.25	3	0.09	15	0.47	-	-
愛媛県	-	-	19	0.49	35	0.90	253	6.49	26	0.67	66	1.69	6	0.15	28	0.72	-	-
高知県	-	-	-	-	21	0.68	48	1.55	16	0.52	3	0.10	5	0.16	15	0.48	-	-
福岡県	4	0.02	11	0.09	110	0.92	668	5.57	81	0.68	11	0.09	9	0.08	144	1.20	3	0.03
佐賀県	-	-	13	0.57	18	0.78	145	6.30	28	1.22	12	0.52	5	0.22	19	0.83	-	-
長崎県	-	-	-	-	15	0.34	174	3.95	28	0.64	-	-	1	0.02	29	0.66	-	-
熊本県	-	-	12	0.24	38	0.78	215	4.39	42	0.86	4	0.08	3	0.06	45	0.92	1	0.02
大分県	-	-	-	-	47	1.31	426	11.83	22	0.61	2	0.06	-	-	47	1.31	-	-
宮崎県	-	-	2	0.05	44	1.19	462	12.49	31	0.84	12	0.32	4	0.11	37	1.00	-	-
鹿児島県	6	0.06	-	-	14	0.24	443	7.51	22	0.37	39	0.66	4	0.07	33	0.56	-	-
沖縄県	4	0.07	-	-	1	0.03	22	0.65	26	0.76	75	2.21	1	0.03	25	0.74	1	0.03

第3102表 報告数・定点当り報告数, 疾病・都道府県別

平成14年42週

	風 疹		ヘルパンギーナ		麻 疹 (成人麻疹を除く)		流行性耳下腺炎		急性出血性 結膜炎		流行性角結膜炎		急性脳炎 (日本脳炎を除く)		細菌性髄膜炎		無菌性髄膜炎	
	報告数	定点当り	報告数	定点当り	報告数	定点当り	報告数	定点当り	報告数	定点当り	報告数	定点当り	報告数	定点当り	報告数	定点当り	報告数	定点当り
総 数	12	0.00	351	0.12	60	0.02	2279	0.75	15	0.02	557	0.87	2	0.00	5	0.01	24	0.05
北海道	-	-	31	0.21	1	0.01	112	0.77	-	-	28	0.97	-	-	-	-	1	0.04
青森県	3	0.07	4	0.10	2	0.05	58	1.38	-	-	12	1.09	-	-	-	-	3	0.60
岩手県	1	0.03	9	0.24	-	-	87	2.29	-	-	13	1.08	-	-	-	-	-	-
宮城県	-	-	8	0.14	8	0.14	124	2.10	1	0.09	-	-	-	-	-	-	-	-
秋田県	-	-	6	0.17	-	-	49	1.40	1	0.14	11	1.57	-	-	-	-	1	0.13
山形県	-	-	7	0.23	-	-	53	1.77	-	-	4	0.50	-	-	-	-	2	0.20
福島県	-	-	10	0.22	14	0.30	86	1.87	3	0.25	13	1.08	-	-	-	-	-	-
茨城県	-	-	1	0.01	2	0.03	24	0.32	1	0.06	32	2.00	-	-	-	-	-	-
栃木県	-	-	3	0.07	-	-	66	1.43	-	-	21	1.75	-	-	1	0.14	-	-
群馬県	-	-	8	0.13	-	-	84	1.35	-	-	73	5.21	-	-	-	-	-	-
埼玉県	-	-	17	0.11	3	0.02	86	0.54	-	-	33	0.92	-	-	-	-	2	0.22
千葉県	-	-	9	0.07	3	0.02	93	0.70	-	-	21	0.62	-	-	-	-	1	0.08
東京都	-	-	9	0.06	5	0.04	66	0.46	-	-	9	0.64	-	-	1	0.04	-	-
神奈川県	-	-	9	0.04	2	0.01	114	0.55	-	-	37	0.88	-	-	1	0.09	-	-
新潟県	-	-	7	0.12	-	-	58	0.97	-	-	3	0.33	-	-	-	-	1	0.08
富山県	-	-	2	0.07	-	-	31	1.07	-	-	1	0.14	-	-	-	-	-	-
石川県	-	-	2	0.07	-	-	7	0.24	-	-	4	0.57	-	-	-	-	-	-
福井県	-	-	2	0.09	-	-	7	0.32	-	-	1	0.33	-	-	-	-	-	-
山梨県	-	-	2	0.08	-	-	15	0.60	-	-	1	0.33	-	-	-	-	1	0.10
長野県	-	-	15	0.28	-	-	18	0.34	2	0.20	10	1.00	-	-	-	-	-	-
岐阜県	-	-	15	0.32	4	0.09	36	0.77	-	-	6	0.55	-	-	-	-	-	-
静岡県	-	-	6	0.07	-	-	76	0.88	1	0.05	8	0.40	-	-	-	-	1	0.10
愛知県	-	-	11	0.06	-	-	76	0.42	2	0.06	19	0.54	-	-	-	-	-	-
三重県	-	-	7	0.16	-	-	37	0.82	-	-	3	0.25	-	-	-	-	-	-
滋賀県	1	0.03	1	0.03	1	0.03	29	0.91	-	-	2	0.29	-	-	-	-	1	0.14
京都府	-	-	4	0.05	1	0.01	34	0.45	-	-	8	0.44	-	-	-	-	1	0.17
大阪府	-	-	33	0.17	7	0.04	74	0.38	2	0.04	23	0.44	-	-	-	-	1	0.07
兵庫県	-	-	5	0.04	2	0.02	84	0.66	-	-	15	0.42	1	0.08	-	-	-	-
奈良県	-	-	2	0.06	1	0.03	41	1.17	-	-	5	0.56	-	-	-	-	-	-
和歌山県	-	-	5	0.16	-	-	15	0.48	-	-	4	1.00	-	-	-	-	-	-
鳥取県	-	-	2	0.11	-	-	31	1.63	-	-	2	0.67	-	-	-	-	1	0.20
島根県	-	-	-	-	-	-	22	0.96	-	-	-	-	-	-	-	-	2	0.25
岡山県	-	-	1	0.02	-	-	53	0.98	-	-	14	1.17	-	-	-	-	-	-
広島県	-	-	8	0.11	-	-	46	0.61	-	-	15	0.75	-	-	-	-	-	-
山口県	-	-	6	0.12	-	-	27	0.55	-	-	5	0.56	-	-	-	-	-	-
徳島県	-	-	4	0.17	-	-	20	0.87	-	-	2	0.50	-	-	-	-	-	-
香川県	-	-	4	0.13	-	-	11	0.34	-	-	5	1.67	-	-	-	-	-	-
愛媛県	-	-	8	0.21	-	-	17	0.44	1	0.14	14	2.00	-	-	-	-	-	-
高知県	1	0.03	6	0.19	-	-	21	0.68	-	-	8	2.67	-	-	1	0.13	1	0.13
福岡県	1	0.01	21	0.18	-	-	66	0.55	1	0.04	36	1.38	-	-	-	-	-	-
佐賀県	-	-	-	-	-	-	8	0.35	-	-	2	0.50	-	-	-	-	-	-
長崎県	1	0.02	2	0.05	-	-	57	1.30	-	-	6	0.75	-	-	-	-	1	0.08
熊本県	-	-	11	0.22	-	-	10	0.20	-	-	10	1.11	1	0.07	-	-	-	-
大分県	-	-	8	0.22	-	-	50	1.39	-	-	3	0.60	-	-	-	-	-	-
宮崎県	2	0.05	16	0.43	4	0.11	44	1.19	-	-	6	1.50	-	-	1	0.14	-	-
鹿児島県	2	0.03	3	0.05	-	-	36	0.61	-	-	1	0.17	-	-	-	-	2	0.17
沖縄県	-	-	1	0.03	-	-	20	0.59	-	-	8	0.80	-	-	-	-	1	0.14

第3102表 報告数・定点当り報告数, 疾病・都道府県別 平成14年42週

	マイコプラズマ肺炎		クラミジア肺炎 (オウム病を除く)		成人麻疹	
	報告数	定点当り	報告数	定点当り	報告数	定点当り
総数	104	0.22	6	0.01	1	0.00
北海道	1	0.04	-	-	-	-
青森県	-	-	-	-	-	-
岩手県	13	0.65	-	-	-	-
宮城県	1	0.08	-	-	-	-
秋田県	10	1.25	-	-	-	-
山形県	3	0.30	-	-	-	-
福島県	4	0.57	-	-	-	-
茨城県	-	-	-	-	-	-
栃木県	1	0.14	-	-	-	-
群馬県	-	-	-	-	-	-
埼玉県	-	-	1	0.11	-	-
千葉県	3	0.23	4	0.31	-	-
東京都	12	0.48	-	-	-	-
神奈川県	2	0.18	-	-	-	-
新潟県	10	0.83	-	-	-	-
富山県	-	-	-	-	-	-
石川県	1	0.20	-	-	-	-
福井県	2	0.33	-	-	-	-
山梨県	3	0.30	-	-	-	-
長野県	2	0.18	1	0.09	-	-
岐阜県	-	-	-	-	1	0.25
静岡県	1	0.10	-	-	-	-
愛知県	3	0.23	-	-	-	-
三重県	-	-	-	-	-	-
滋賀県	1	0.14	-	-	-	-
京都府	-	-	-	-	-	-
大阪府	5	0.33	-	-	-	-
兵庫県	2	0.15	-	-	-	-
奈良県	1	0.17	-	-	-	-
和歌山県	1	0.09	-	-	-	-
鳥取県	-	-	-	-	-	-
島根県	-	-	-	-	-	-
岡山県	-	-	-	-	-	-
広島県	5	0.24	-	-	-	-
山口県	-	-	-	-	-	-
徳島県	1	0.17	-	-	-	-
香川県	-	-	-	-	-	-
愛媛県	-	-	-	-	-	-
高知県	8	1.00	-	-	-	-
福岡県	-	-	-	-	-	-
佐賀県	-	-	-	-	-	-
長崎県	2	0.17	-	-	-	-
熊本県	4	0.27	-	-	-	-
大分県	-	-	-	-	-	-
宮崎県	-	-	-	-	-	-
鹿児島県	1	0.08	-	-	-	-
沖縄県	1	0.14	-	-	-	-

感染症週報 第4巻、第42号 平成14年11月1日発行
 発行：国立感染症研究所
 厚生労働省健康局結核感染症課
 厚生労働省大臣官房統計情報部
 事務局：国立感染症研究所感染症情報センター
 〒162-8640東京都新宿区戸山1-23-1
 T E L : 03-5285-1111
 F A X : 03-5285-1129
 U R L : <http://idsc.nih.go.jp/index-j.html>
 <国立感染症研究所 感染症情報センター>
<http://www.mhlw.go.jp/>
 <厚生労働省>
<http://www.forth.go.jp/>
 <旅行者のための海外感染症情報(厚生労働省検疫所)>

本週報は、感染症新法に基づくものであり、全国の医療従事者、定点医療機関、保健所、保健所設置市、特別区、都道府県、地方衛生研究所、検疫所の皆様のご協力を得て、国立感染症研究所感染症情報センターにおいて編集したものです。

また、本週報は速報性を重視しておりますので、今後調査などの結果に応じて、若干の変更が生じることがありますが、その場合には週報上にて訂正させていただきます。

「感染症の話」及び「読者のコーナー」の回答欄の内容に関する責は、それぞれの執筆者及び回答者に属しますが、内容に関するご質問、ご意見については事務局でお受けいたします。

なお、週報の内容について、学術的研究、あるいは公衆衛生活動にかかわる業務以外の目的においては、無断転載を禁じます。